法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-03-14

和仏法律学校講義録

下村，宏 / 遠藤，忠次 / 鶴見，守義 / 和仁，貞吉

(出版者 / Publisher)
和佛法律學校
(巻 / Volume)
2-21
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
51
(発行年 / Year)
1902-09-10

（明治三十四年十一月九日第三種郵便物認可　毎月二回）
（明治三十五年九月十日　發行）

三十五年度　第二學年

和佛法律學校講義録

第壹拾貳號

和佛法律學校發行

第二學年第二十一號目次

商法會社（完）（自二四五 至二七五）　法學士　和仁貞吉

表紙及び目次　八頁

民事訴訟法第二編（自二四一 至二四八）　法學士　遠藤忠次

刑事訴訟法（自二〇五 至二二）　法律學士　鶴見守義

財政學（自一九三 至二二四）　法學士　下村宏

雜報

○歡羅倶發例ニ依ル判決中ノ一罪ニ對スル控訴○第二審公判ニ於ケル闕席判決手續

090
1902
2-1-21

返還ヲ請求スルコトヲ得第一九五條民法第四二三條參照）

損失ヲ塡補シ且法定ノ準備金ヲ控除シタル殘額ハ會社カ自由ニ處分シ得ル所ノ金額ナリ會社ハ或ハ其一部ヲ任意ノ準備金トシテ積立テ或ハ之ヲ以テ社債ヲ償還シ又或ハ其全部ヲ株主間ニ配當スルコトヲ得其配當ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應シテ爲スヲ原則トス是レ最モ公平ヲ得タルモノナリ然レトモ會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ優先株主ニ對シ特別ノ利益ヲ與フルコトヲ得ルハ論ヲ俟タス（第一九七條）商法第百九十七條ニハ利益ノ配當ノ外利息ノ配當ニ關スル規定アリ茲ニ所謂利息トハ外國法ノ建築利息ヲ謂フモノニシテ會社カ設立ノ登記ヲ爲シタル後開業スルニ至ルマテノ間ニ於テ株主ニ與フル所ノ株金ニ對スル一定ノ利息ナリ夫レ會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ開業ヲ爲スニ至ルマテ長年月ヲ要スルモノニ在リテハ開業前ニ於テ未タ株主ニ配當スヘキ利益ナルモノ之ナキヲ以テ株主ハ株金ヲ拂込ミナカラ之ニ對スル利息ヲモ受クルコト能ハス之カ爲メ自然此ノ如キ會社ヲ設立セントスルモ甘シテ其株式ヲ引受クル者ナキニ至ルヘシ故ニ運河、築港、鐵道等ノ如

第二學年第二十一號目次

商法會社（完）（自二四五頁　至二七五頁）　法學士　和仁貞吉

典籍及び目次　八頁

民事訴訟法第二編（自二四一　至二四八）　法學士　遠藤忠次

刑事訴訟法（自二〇五頁　至二一二）　法律學士　鶴見守義

財政學（自一九二　至二二）　法學士　下村宏

雜報

○獻米損發例ニ依ル判決中ノ一單ニ對スル控訴○第二審公判ニ於ケル關席判決手續

090
1902
2-1-21

返還ヲ請求スルコトヲ得(第一九五條民法第四二三條參照)

損失ヲ塡補シ且法定ノ準備金ヲ控除シタル殘額ハ會社カ自由ニ處分シ得ル所ノ金額ナリ會社ハ或ハ其一部ヲ任意ノ準備金トシテ積立テ或ハ之ヲ以テ社債ヲ償還シ又或ハ其全部ヲ株主間ニ配當スルコトヲ得其配當ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應シテ爲スヲ原則トス是レ最モ公平ヲ得タルモノナリ然レトモ會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ優先株主ニ對シ特別ノ利益ヲ與フルコトヲ得ルハ論ヲ俟タス(第一九七條商法第百九十七條ニハ利益ノ配當ノ外利息ノ配當ニ關スル規定アリ茲ニ所謂利息トハ外國法ノ建築利息ヲ謂フモノニシテ會社カ設立ノ登記ヲ爲シタル後開業スルニ至ルマテノ間ニ於テ株主ニ與フル所ノ株金ニ對スル一定ノ利息ナリ夫レ會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ開業ヲ爲スニ至ルマテ長年月ヲ要スルモノニ在リテハ開業前ニ於テ未タ株主ニ配當スヘキ利益ナルモノ之ナキヲ以テ株主ハ株金ヲ拂込ミナカラ之ニ對スル利息ヲモ受クルコト能ハス之カ爲メ自然此ノ如キ會社ヲ設立セントスルモ甘シテ其株式ヲ引受クル者ナキニ至ルヘシ故ニ運河、築港、鐵道等ノ如

タ容易ニ開業スルコトヲ得サル事業ヲ目的トスル會社ニ限リ定款ヲ以テ開業ヲ爲スニ至ルマテ一定ノ利息ヲ株主ニ配當スヘキコトヲ定ムルコトヲ許スハ實際上大ニ必要トスル所ナリ其利率ハ法定利率ヲ超ユルコトヲ得ス且利息配當ノ規定ハ裁判所ノ認可ヲ受クルヲ要ス是レ利息ノ配當ハ往往投機ノ媒介ヲ爲スノ虞アレハナリ利息ノ配當モ亦利益ノ配當ト同シク定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應シテ爲スヘキモノトス但優先株ヲ發行シタルトキハ此限ニ在ラス(第一九六條第一九七條)

以上説明スルカ如ク會社ノ計算ヲ爲ス者ハ取締役ニシテ之ヲ監視スル者ハ監査役ナリ故ニ監査役ノ設置アルトキハ業務ノ執行及ヒ財産ノ管理ニ付キ取締役ヲシテ不正若クハ不注意ノ行爲ナカラシムルコトヲ得ルカ如シト雖モ株式會社ノ事業ハ繁雜錯綜ニシテ往往監査役ト雖モ其實況ヲ洞見スルコトヲ得サルコトアルノミナラス又時トシテハ取締役ト結托シテ共ニ不正ヲ謀ルコトナシトセス其弊害ヲ防クカ爲メニハ監査役ノ外別ニ嚴正ナル方法ヲ設クル必要アリ檢査役ノ選任及ヒ裁判所ノ干渉是ナリ商法第百九十八條ノ規定ニ依レハ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主ハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ檢査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得檢査役ハ其職務ヲ行フニ付キ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス會社ノ金庫ヲ開キテ現在ノ金額ヲ調ヘ帳簿又ハ書類ヲ檢査シ取締役監査役其他ノ役員ニ對シテ説明ヲ求ムルカ如キハ固ヨリ其爲シ得ル事項ナリトス調査結了シタルトキハ檢査役ハ其結果ヲ裁判所ニ報告スルヲ要ス裁判所ハ其報告ニ依リ必要アリト認メタルトキハ適當ノ處分ヲ爲サシムルカ爲メ監査役ヲシテ株主總會ノ招集ヲ爲サシムルコトヲ得(第一九八條)

第六章　社債

會社ハ一箇人ト同シク事業ノ成蹟ニ依リ負債ヲ爲ス必要ニ遭遇スルコトアリ其方法ハ或ハ一部ノ大資本家ヨリ爲スコトアリト雖モ通常其金額頗ル大ナルカ故ニ一箇人ヨリ負債ヲ爲スコト少ク法律ノ許シタル特別ノ方法ニ依リ廣タ公衆ヨリ之ヲ爲スモノトス此特別ノ方法ヲ社債ノ募集ト謂フ社債ノ募集ハ會

社カ負債ヲ爲ス所ノ方法ニシテ社債ハ會社ニ對スル純然タル債權ナリ隨テ社債ノ募集ハ決シテ會社ノ資本ヲ增加スル方法ニ非ス商法第二百六條カ之ヲ以テ資本ノ增加方法ト爲シタルハ會社ノ資本ト會社ノ財產トヲ混同シタル不論理ノ規定ナリ

社債ト株式トハ相類似スル點アルモ其性質ハ全ク異ナレリ株式ハ株主カ會社ニ對スル權利ニシテ社債ハ第三者カ會社ニ對スル債權ナリ二者類似ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

一　社債ハ自由ニ讓渡スコトヲ得

二　債券ハ其全額ノ拂込アリタルトキ無記名式ト爲スコトヲ得

株式ト社債トノ異ナル要點ヲ擧クレハ左ノ如シ

一　株主ハ社債權者ニ辨濟シタル後ニ非サレハ會社財產ノ分配ヲ受クルコトヲ得ス(第二三四條第九五條參照)

二　株主カ配當ヲ受クル所ノ利益ハ年度ニ依リ差異アレトモ社債權者ハ常ニ一定ノ利息ヲ受ク

三　社債ノ辨濟ハ會社ノ義務ナルモ株金ノ拂戻ハ通則トシテ禁セラル

四　株主ハ會社ノ業務ニ參與スル權利ヲ有スルモ社債權者ハ此權利ヲ有セス

社債ヲ募集スルニハ左記ノ方法及ヒ制限ニ依ルコトヲ要ス

(一)　第二百九條ニ定メタル決議ニ依ルコトヲ要ス是レ社債ソ募集ハ定款ノ變更ニ非サルモ會社ノ事業ニ重要ナル關係ヲ有スルコト定款ノ變更ニ劣ル所ナシ故ニ定款ノ變更ニ要スル特別決議ヲ要ス(第一九九條)

(二)　社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ニ超ユルコトヲ得ス又最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財產カ拂込ミタル金額ニ滿タサルトキハ其財產ノ額ニ超ユルコトヲ得ス是レ社債ニ對スル擔保ヲ確實ナラシムルト會社ヲシテ濫ニ社債ヲ募集スルコトヲ爲サシメサル爲メノ規定ナリ(第二〇〇條)

(三)　社債ノ金額ハ二十圓ヲ下ルコトヲ得ス(第二〇一條)

(四)　社債權者ニ償還スヘキ金額カ券面額ニ超ユルコトヲ定メタルトキハ其金額ハ各社債ニ付キ同一ナルヲ要ス(第二〇二條)是レ濫ニ各社債ニ付キ償還

金額ヲ異ニスルコトヲ許ストキハ富籤ニ類スル賭事ヲ公行スルニ至リ公衆ヲ害スル憂アルカ故ナリ

(五)　取締役ハ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス(第二〇三條)

一　第百七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項

二　會社ノ商號

三　前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其償還ヲ了ヘサル總額

四　社債發行ノ價額又ハ其最低價額

五　會社ノ資本及ヒ拂込ミタル株金ノ總額

六　最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額

社債ノ募集カ完了シタルトキハ取締役ハ各社債ニ付キ其全額ヲ拂込マシムルコトヲ要ス蓋シ社債ハ會社ノ事業ヲ經營スルニ當リ必要アル場合ニ於テノミ募集スルモノナルカ故ニ其募集完了シタルトキ社債ノ全額ヲ拂込マシムルハ至當ナリ(第二〇四條第一項)

取締役カ社債全額ノ拂込ヲ受ケタルトキハ其日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ社債ノ總額、各社債ノ金額、社債利率、社債償還ノ方法及ヒ期限ヲ登記スルコトヲ要ス(第二〇四條第二項)

社債ハ會社ニ對スル貸主ノ權利ナリ此權利ハ純然タル一ノ債權ナルカ故ニ他人ニ讓渡スヲ得ルコト他ノ債權ト異ナルコトナシ然レトモ其債權ノ讓渡ヲシテ容易ナラシムルハ社債ヲ募集スル上ニ於テノミナラス一般ノ經濟上ニ於テモ甚タ便宜トスル所ナリ是ヲ以テ法律ハ株式ノ讓渡ヲ容易ナラシムルカ爲メ株券ノ發行ヲ認メタルト同一ノ趣旨ニ依リ社債ノ讓渡ヲ容易ナラシムルカ爲メ債券ノ發行ヲ認メタリ債券ハ社債權者ノ權利ヲ表彰スル所ノ證書ナリ債券ニハ第二百三條第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル事項及ヒ番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス(第二〇五條)

債券ニハ記名式ノモノト無記名式ノモノトアリ記名式ノ債券ハ社債ノ金額ノ全部カ拂込マレタルトキ社債權者ノ請求ニ因リ無記名式ト爲スコトヲ得(第二〇七條)

社債ノ讓渡ニ付テハ株式ノ讓渡ニ關スル同一ノ法則適用セラル即チ無記名社

債ノ讓渡ハ合意ノミニ因リテ效力ヲ生スルモ記名社債ノ讓渡ハ讓受人ノ氏名住所ヲ社債原簿ニ記載シ且其氏名ヲ債券ニ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(第二〇六條)

第七章　定款ノ變更

定款ヲ變更スルニハ株主總會ノ決議ニ依ルコトヲ要ス取締役又ハ監査役ハ如何ナル場合ニ於テモ定款ヲ變更スル權能ヲ有スルコトナシ故ニ定款又ハ株主總會ノ決議ヲ以テ取締役又ハ監査役ニ定款變更ノ權ヲ與フルモ其效ナシ商法第二百八條ニ定款ハ株主總會ノ決議ニ依リテノミ之ヲ變更スルコトヲ得ト規定セルハ即チ此意ナリ株主總會ニ於テ定款ヲ變更スルニハ普通ノ決議方法ニ依ルコトヲ許サス必ス總株主ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ決セサルヘカラス是レ法律ノ命スル所ナリ然レトモ定款ニ於テ之ニ反スル規定ヲ爲スモ妨ト爲ラス唯其規定ハ議決ノ方法ヲ法律ノ命スル所ヨリモ

一層重カラシムルコトヲ得ルニ止マリ之ヲ輕減スルコトヲ得ス例ヘハ或事項ニ限リ總株主ノ同意ヲ必要トスルコトヲ規定スルカ如シ此ノ如ク定款ヲ變更スルニハ一定ノ員數ノ株主出席スルコトヲ必要トスレトモ時トシテハ種種ノ事情ノ爲メ其定數株主ノ出席ヲ得ル能ハサルコトアリ斯ル場合ニハ實際定款ヲ變更スルニ於テ大ナル利益アルニ拘ハラス定員ノ出席ヲ得サルカ爲メ之ヲ斷行スル能ハスシテ會社ノ不利益ヲ釀スルコトナシトセス此點ニ付キ法律ヲ以テ便宜ノ規定ヲ設クルコトハ最モ必要トスル所ナリ商法第二百九條第二項ノ規定ニ依レハ定員ノ株主出席セサルトキハ其出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ爲スコトヲ得此決議ハ固ヨリ一時ノ決議ニシテ直チニ其效力ヲ生スルモノニ非ス故ニ之ヲシテ有效ノ決議タラシムルカ爲メ會社ハ各株主ニ對シテ假決議ノ趣旨ノ通知ヲ發シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其趣旨ヲ公告シ更ニ一箇月ヲ下ラサル期間内ニ第二回ノ株主總會ヲ招集スルコトヲ要ス而シテ第二回ノ株主總會ニ於テハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ認可スルヤ否ヤヲ決定ス之ヲ認可スル決議ヲ爲シタルト

キハ定款ハ之ニ關リテ變更セラルルモ然ラサルトキハ固ヨリ變更セラルルコトナシ(第二〇九條第二項乃至第三項)

以上ハ定款ノ變更ニ關スル通則ナリト雖モ之ニハ二ノ例外アリ即チ會社ノ目的タル事業ヲ變更スル場合及ヒ優先株主ニ損害ヲ及ホスヘキ定款ノ變更ヲ爲ス場合是ナリ會社ノ事業ノ變更ハ最モ重要ナル定款ノ變更ナリ故ニ是レ必ス總株主ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當ル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ決スルコトヲ要シ假決議ノ方法ヲ用スルコトヲ許サス(第二〇九條第四項)又會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ定款ノ變更カ優先株主ニ損害ヲ及ホスヘキトキハ其株主ノ利益ヲ保護スルカ爲メ株主總會ノ決議ノ外優先株主ノ總會ノ決議アルコトヲ必要トス此優先株主ノ總會ニハ株主總會ニ關スル規定ヲ準用ス(第二一二條)

定款ノ變更ハ登記スルヲ要ス登記ナケレハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(第一四二條第二項、第五三條參照)

定款ノ變更ニ屬スル事項ニシテ法律ニ特別ナル規定ヲ爲スモノアリ即チ會社

資本ノ增減是ナリ會社ノ資本ハ會社ノ事業ニ大ナル關係ヲ有スルモノニシテ其額ハ定款ニ依リテ一定ス資本ノ增減ハ重要ナル定款ノ變更ニシテ且法律ヲ以テ其手續ヲ一定スルニ非サレハ詐欺又ハ投機ノ行ハルル虞アリ是レ法律カ此點ニ關シ特ニ規定ヲ爲シタル所以ナリトス左ニ之ヲ說明スヘシ

第一　資本ノ增加

資本ヲ增加スルコトハ會社カ事業ヲ擴張スルカ爲メニ行ハルルヲ通常トス然レトモ其他ノ目的ノ爲メニ行ハルルコト亦敢テ稀ナリトセス例ヘハ社債ヲ返還スルカ爲ノ資本ヲ增加スルカ如シ

資本ノ增加ハ何時ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ルヤ商法第二百十條ノ規定ニ依レハ資本ハ株金全額拂込ノ後ニ非サレハ資本ヲ增加スルコトヲ得ス蓋シ會社カ資本ヲ增加スルハ之ニ依リテ事業ノ經營ニ必要ナル資金ヲ得シカ爲メナレハ其增加ノ必要ハ株金全額ノ拂込以前ニ於テ之ヲ感スルコトアルニ拘ハラス先ツ株金ノ未濟ニ屬スルモノヲ拂込マシメ其後資本ヲ增加スルヲ敢テ遲シトセス加之未タ株金全額ノ拂込ナキ以前ニ於テ資本ノ增加ヲ許ストキハ往往之ニ

依リテ社運ノ隆盛ヲ裝ヒ株式ノ價額ヲ騰貴セシメ其間不正ノ利益ヲ貪ラントスルカ如キ弊害ヲ生スルコトナシトセス是レ法律カ此制限ヲ設ケタル所以ナリ

商法カ資本增加ノ方法トシテ認ムルモノハ新株ヲ募集スル一方法アルノミ故ニ會社ハ其他ノ方法ニ依リテ資本ヲ增加スルコトヲ得ス舊商法ニ於テハ新株ノ募集ノ外株金ノ增加ヲ以テ資本增加ノ方法ト爲シタリ然レトモ是レ不理ノ甚シキモノニシテ法律上決シテ許容スヘキモノニ非ス夫レ株主ノ責任ノ有限ナルハ株式會社ノ本質ナリ株主ハ其引受ケ又ハ讓受ケタル株式ノ數ニ應シテ會社ニ對シ株金ヲ拂込ムノ外他ニ何等ノ義務ヲ負フコトナシ然ルニ株主總會ニ於テ資本增加ノ方法トシテ株金ノ增額ヲ決議シ株主ヲシテ其引受ケ又ハ讓受ケタル株式ノ金額以外ニ金錢ヲ拂込マシムルハ株主ノ責任有限ナリトノ原則ニ抵觸スルモノニシテ之ヲ許ストキハ株式會社ノ本質ヲ破ルニ至ルヘシ新商法カ此規定ヲ廢シタルハ頗ル當ヲ得タルモノナリ

新株ノ募集ニ付テハ會社ノ設立ニ關スル規定ト殆ト同一趣旨ノ規定カ適用セラルト雖モ其最モ異ナル所ハ新株ヲ募集スルニ當リ優先株ノ發行ヲ爲シ得ルコト是ナリ優先株トハ普通ノ株式ニ比シ優等ノ權利ヲ包有スル所ノ株式ヲ謂ヒ其株主ヲ優先株主ト稱ス其優等ノ權利ハ定款ニ依リテ定マルヘキモノナレトモ普通見ル所ノモノハ利益ノ配當又ハ殘餘財產ノ分配ニ付テ他ノ株主ニ優先スル權利ナリ新株ヲ募集スルニ當リ優先株ヲ發行スルハ之ニ依リテ其募集ヲ容易ナラシメ以テ資本ノ增加ヲ爲サントスルニ在リ優先株ノ發行ハ之ヲ定款ニ記載スルコトヲ要ス（第二一一條）

新株ノ募集ニ付テハ世上一般ノ者ハ固ヨリ株主ト雖モ之ニ應スルコトヲ得

新株ニ付キ第百二十九條ノ拂込アリタルトキハ取締役ハ遲滯ナク株主總會ヲ招集シテ之ニ新株ノ募集ニ關スル事項ヲ報告シ檢査役ハ(一)新株總數ノ引受アリタルヤ否ヤ(二)各新株ニ付キ第百二十九條ノ拂込アリタルヤ否ヤ(三)金錢以外ノ財產ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル者アルトキハ其財產ニ對シテ與フル株式ノ數ノ正當ナルヤ否ヤヲ調査シ之ヲ株主總會ニ報告スルコトヲ要ス株主總會ハ此等ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムル爲メ特ニ檢査役ヲ選任スルコトヲ得又株

主總會ニ於テ金錢以外ノ財產ヲ出資ノ目的トスル者ニ對シテ與フル株式ノ數ヲ不當ト認メ之ヲ減少シタルトキハ其者ハ金錢ヲ以テ拂込ヲ爲スコトヲ得(第二一三條乃至第二一五條)

引受ナキ株式若クハ第百二十九條ノ拂込ノ未濟ナル株式アルトキ又ハ株式ノ申込カ取消サレタルトキハ取締役ハ連帶シテ其株式ヲ引受ケ又ハ其拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ(第二一六條)

會社ハ資本ノ增加ニ付テハ第二百十七條ニ從ヒ登記ヲ爲スコトヲ要ス

新株ハ舊株ト同一ノ性質ヲ有スルモノナレハ之ヲ支配スル法律ノ規定モ亦同一ナリ例ヘハ株式引受人ノ拂込義務其申込ノ取消株主ノ責任株式ノ金額株券ノ發行、株式ノ讓渡等ニ關スル規定ノ如シ但新株ノ株券ニハ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ優先株ノ株券ニハ其株主ノ權利ヲ記載スルコトヲ要ス(第二一八條、第一一九條、第二一七條第二項)

第二　資本ノ減少

資本ノ減少ハ會社財產ノ減少ト同一ノ意義ヲ有スルモノニ非ス資本ノ減少ハ種種ノ目的ノ爲メニ行ハル或ハ事業ノ範圍ヲ減縮スル結果トシテ多額ノ資本ヲ要セサルニ至リタルカ爲メ之ヲ爲スコトアリ或ハ連年損失ヲ被リ之ヲ塡補スル能ハサル場合ニ於テ其損失ニ係ル額タケ資本ヲ減スルコトアリ而シテ後ノ目的ノ爲メニ資本ヲ減スルコト最モ多ク行ハルル所ナリトス蓋シ株主ハ利益ノ配當ヲ得ンカ爲メ株式ヲ引受ケ又ハ之ヲ讓受クルモノナレハ損失ヲ塡補スルマテ少シモ利益ノ配當ヲ受クルコトヲ得ストセハ勢ヒ多クノ株主ノ離散スルコトヲ免ルル能ハス故ニ其損失額タケ資本ヲ減少シ翌年度ヨリ利益ノ配當ヲ爲スコト會社ヲ維持スル上ニ於テ最モ策ノ得タルモノナリトス

資本ノ減少ハ資本ノ增加ト異ナリ之ヲ爲スコトヲ得ル時期ニ付キ法律上ノ制限ナシ故ニ會社ハ何時ニテモ資本ノ減少ヲ爲スコトヲ得然レトモ資本ノ減少ハ畢竟會社債權者ノ利益ヲ害スルモノナルカ故ニ之ヲ爲スニ付テハ必ス會社債權者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス此點ニ付テハ後ニ說明スヘシ

資本ヲ減少スル方法ニ付テモ亦法律上ノ制限ナシ故ニ會社ハ其選フ所ノ方法ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ得然レトモ其方法ノ如何ニ依リ株主ノ利害ニ大ナル

關係アルヲ以テ株主總會ニ於テ資本減少ノ決議ヲ爲ストキハ之ト同時ニ其減少ノ方法ヲ議決スルコトヲ要ス(第二二〇條)普通資本減少ノ方法トシテ行ハルルモノ三アリ

(一)株式ノ金額ヲ減少スルコト

此方法ハ株式ノ金額ヲ減セスシテ唯其金額ノミヲ減少スルモノナリ例ヘハ百圓ノ株金ヲ減シテ五十圓ト爲スカ如シ此方法ニ依ルモ株金額ヲ減シテ法定ノ額以下ニ至ラシムルコトヲ得ス此方法ニモ亦三種アリ

(イ)株金ノ全額カ未タ拂込マレサル場合ニ於テ其未拂ニ屬スル金額ノ拂込ヲ免除シ以テ株金額ヲ減スルコト

(ロ)株金ノ全額カ既ニ拂込マレタル場合ニ於テ其一部ヲ拂戻シ以テ株金額ヲ減スルコト

(ハ)會社カ損失ニ依リ財產ヲ減シタル場合ニ於テ其現在ノ財產額ヲ以テ資本額ト爲シ之ニ應シテ株式ノ金額ヲ減スルコト

(二)株式ノ數ヲ減スルコト

此方法ハ株式ノ金額ヲ減少セスシテ株式ノ數ノミヲ減スルモノナリ例ヘハ千株アリシモノヲ五百株ト爲スカ如シ普通行ハルルモノハ株式ノ償却是ナリ會社ハ株式ヲ償却スルコトヲ得サルヲ以テ原則トシテハ資本減少ノ規定ニ從フトキハ之ヲ爲シ得ルコト第百五十一條第二項ノ規定スル所ナリ株式ノ償却トハ株金額ヲ株主ニ拂戻シ以テ株式ヲ消滅セシムルモノニシテ畢竟一部ノ株主ヲ會社ヨリ脫退セシムル方法ナリ而シテ之ヲ爲スニハ抽籤ニ依リ其償却スヘキ株式ヲ定メ會社ノ財產ヲ以テ株金額ヲ株主ニ拂戻ス商法第百五十一條第一項ニハ會社ハ自己ノ株式ヲ取得スルコトヲ得サル規定アリ故ニ會社カ自ラ資本金ヲ以テ市場價格ニ從ヒ株式ヲ買收シ以テ株式ノ償却ヲ爲スコトハ我商法ノ認メサル所ナリト解セサルヘカラス

(三)株式ノ金額及ヒ株式ノ數ヲ減スルコト

此方法ハ同時ニ前掲第一、第二ノ方法ヲ行フモノナリ株主總會ニ於テ資本ノ減少ヲ決議シタルトキハ會社ハ其決議ノ日ヨリ二週間內ニ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作リ其債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間內

(二)箇月ヲ下ルコトヲ得又(第)其之ヲ通ス(ル)ハ其旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルヲ要ス債權者カ其期間内ニ異議ヲ述ヘサルトキハ之ニ對シ承諾シタルモノト看做シ會社ハ資本ヲ減少スルヲトヲ得ルモ異議ヲ述ヘタルトキハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ資本ヲ減少スルコトヲ得ス若シ債權者ハ異議アルモ拘ハラス資本ヲ減少シタルトキハ之ヲ以テ異議ヲ述ヘタル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス又異議ヲ述フヘキ旨ハ公告又ハ催告ヲ爲サスシテ資本ヲ減少シタルトキハ之ヲ以テ債權者全體ニ又ハ催告ヲ受ケサル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス(第二二〇條第七八條乃至第八〇條參照)

第八章　解散

株式會社ノ解散ニ關スル法理ハ總テ合名會社ノ解散ニ關スル法理ト同一ナリ

ヲ以テ更ニ茲ニ之ヲ詳論セス唯タ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一　存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル事由ノ發生

二　會社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

三　株主總會ノ決議

四　會社ノ合併

五　株主カ七人未滿ニ減シタルコト

六　破產

七　裁判所ノ命令

會社カ解散ノ決議及ヒ合併ノ決議ヲ爲スニハ定款變更ノ規定ニ從フコトヲ要ス(第二二二條)

會社カ合併ヲ爲サントスルトキハ其旨ヲ公告シテ株主總會ノ會日前一箇月内ノ期間及ヒ開會中記名株ノ讓渡ヲ停止スルコトヲ得又株主總會ニ於テ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其決議ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ株主ハ其記名株ノ讓渡ヲ爲スコトヲ得ス是レ皆株主ノ變更ヨリ生スル不便ヲ避ケンカ爲メノ規定ナリ無記名株ノ讓渡ヲ禁セサルハ其讓渡ノ容易ニシテ

何時讓渡サレタルカヲ後日ニ決定スルコト甚タ困難ニシテ禁止ノ規定ヲ爲スモ其實效ナキカ故ナリ(第二二三條)

會社カ解散シタルトキハ破產ノ場合ヲ除タ外取締役ハ遲滯ナク株主ニ對シ其通知ヲ發シ且記名式ノ株券ヲ發行シタル場合ニ於テハ之ヲ公告スルコトヲ要ス(第二二四條)

此他株式會社ノ解散ニハ合名會社ノ解散ニ關スル規定ヲ準用ス(第二二五條)

第九章　清算

株式會社ノ清算ニ關スル法理ハ合名會社ノ清算ニ關スル法理ト同一ナルヲ以テ茲ニ再ヒ之ヲ詳論セス

株式會社ハ解散ニ因リ營業能力ヲ喪失スルモ清算ノ目的ノ範圍內ニ於テハ尙ホ存續スルモノト看做サルルカ故ニ會社ノ機關及ヒ株主ノ權利義務モ亦清算ノ目的ノ範圍內ニ於テハ尙ホ存續スルモノナリ唯取締役ハ營業上ノ機關ニシテ解散後其用ナキモノナルヲ以テ此機關ハ解散ニ因リテ全ク消滅ス之ニ代リテ會社ヲ代表シ會社ノ事務ヲ執行スル者ヲ清算人トス清算人ニハ取締役ニ關スル多クノ規定カ適用セラルレトモ營業ニ關スル規定ハ固ヨリ之ヲ適用セス例ヘハ競業禁止ノ規定ノ如シ(第二三四條、第八四條、第一五九條、第一六〇條、第一六三條、第一七六條第一項、第一七八條、條一八三條乃至第一八五條、第一八七條參照)

合名會社及ヒ合資會社ニ在リテハ必ス法定ノ清算手續ヲ爲スヲ要セス定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ會社財產ノ處分方法ヲ定ムルヲ得ルコト商法第八十五條ニ規定スル所ナレトモ此規定ハ株式會社ノ清算ニ準用セラレサルカ故ニ株式會社ニ在リテハ必ス法定ノ清算手續ニ依ルコトヲ要ス

株式會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破產ノ場合ヲ除クノ外取締役其清算人ト爲ルコト原則ナリ但定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ株主總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス而シテ此等ノ方法ニ依ルモ尙ホ清算人タル者ナキ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス(第二二六條)

株主總會ニ於テ選任シタル清算人ハ何時ニテモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解

任スルコトヲ得又重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ監査役又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得(第二二八條)

清算人ノ職務ハ現務ノ終了、債權ノ取立並ニ債務ノ辨濟及ヒ殘餘財產ノ分配是ナリ而シテ之ヲ爲スニハ會社財產ノ狀況ヲ明カニスル必要アリ故ニ清算人ハ就職ノ後遲滯ナク會社財產ノ現況ヲ調査シ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作リ之ヲ株主總會ニ提出シテ其承認ヲ求ム且其承認ヲ得タルトキハ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス株主總會ハ特ニ檢査役ヲ選任シテ此等ノ書類ノ調査ヲ爲サシムルコトヲ得(第二二七條第一八五條第二項第一九二條第二項參照)又清算人ハ就職ノ日ヨリ二箇月內ニ少タトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ二箇月ヲ下ラサル一定ノ期間內ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス而シテ其公告ニハ債權者カ其期間內ニ申出ヲ爲ササルトキハ其債權ハ清算ヨリ除斥セラルヘキ旨ヲ附記セサルヘカラス此公告ヲ爲シタルニ拘ハラス債權ノ申出ナキトキハ清算人ハ其債權ヲ除斥スルコトヲ得然レトモ此公告ハ債權者ヲ知ルコトヲ以テ目的トスルモノナルカ故ニ縱令之ニ從ヒ債權ノ申出ヲ爲ササルモ清算人ニ知レタル債權者ニハ之ヲ除斥スルコトヲ得ス且清算人ニ知レタル債權者ニハ各別ニ其申出ヲ催告スルコトヲ要ス申出期間後ニ申出テタル債權者ハ會社ノ債務完濟ノ後未タ株主ニ引渡ササル財產ニ對シテノミ請求ヲ爲スコトヲ得(第二三四條、民法第七九條、第八〇條參照)

清算人ハ會社財產ヲ以テ先ツ會社ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ株主ニ配當スルコトヲ得ス而シテ之ヲ爲スニハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應シテ之ヲ株主ニ分配ス然レトモ會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ之ニ異ナリタル定アルトキハ此限ニ在ラス(第二二九條)

清算事務カ終了シタルトキハ清算人ハ遲滯ナク決算報告書ヲ作リ之ヲ株主總會ニ提出シテ其承認ヲ求メサルヘカラス此場合ニ於テ株主總會ハ其書類ノ當否ヲ調査セシムル爲メ特ニ檢査役ヲ選任スルコトヲ得而シテ株主總會ニ於テ承認ヲ與ヘタルトキハ清算人ハ其決算ニ付キ不正ノ行爲ナキ限リ解除セラル(第二三〇條、第一五八條第二項、第一九三條參照)

總會招集ノ手續又ハ其決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ反スルトキハ清算人ハ必

ス其決議無效ノ宣告ヲ請求セサルヘカラス茲ニ所謂總會ノ決議ハ清算事務ニ關シテ招集セラレタル株主總會ノ決議ヲ謂フ株主ハ固ヨリ此總會ノ決議ニ對シ一箇月内ニ無效宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモ清算事務ハ速ニ終了セシムヘキ必要アルヲ以テ一箇月内ニ果シテ株主ヨリ請求ヲ爲スヤ否ヤヲ待ツコト能ハス是レ法律カ清算人ニ其義務ヲ命シタル所以ナリトス(第二三一條第一六三條參照)

會社カ事業ニ著手シタル後其設立ノ無效ナルコトヲ發見シタルトキハ解散ノ場合ニ準シテ清算ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス(第二三二條)

會社ノ帳簿其營業ニ關スル信書及ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ本店ノ所在地ニ於テ清算結了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其保存者ハ清算人其他利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ選任ス(第二三三條)

此他清算ニ關シテ合名會社ノ清算ニ關スル規定ヲ準用ス(第二三四條第八九條乃至第九三條、第九五條、第九七條、第九九條參照)

第四編　株式合資會社

株式合資會社ハ無限責任社員ト株主トヨリ組織スル所ノ商事會社ナリ此會社ハ合資會社ノ一種トシテ認メラルルト雖モ其經濟上ノ效用及ヒ法律上ノ形式ハ最モ株式會社ニ類似ス是ヲ以テ商法ニ於テハ株式合資會社ニ關スル規定中無限責任社員ニ關スルモノニ付テハ合資會社ニ關スル規定ヲ準用シ其他ノ點ニ付テハ特別ノ規定ナキ限リ總テ株式會社ニ關スル規定ヲ準用セリ(第二三六條)故ニ合資會社及ヒ株式會社ニ關スル規定ヲ明カニスレハ株式合資會社ニ關スル規定ハ自ラ明カナルヘシ左ニ株式合資會社ニ特別ナル規定ニ付テ略說スヘシ

第一章　設立

株式合資會社ハ合資會社及ヒ株式會社ノ各長所ヲ採リテ設定セラレタルモノニシテ特種ノ技能ヲ有スル少數ノ者カ多數ノ資產家ヲ集メテ大事業ヲ經營スルニ最モ適當ナル組織ナリ此會社ノ無限責任社員ハ合資會社ノ無限責任社員ト概ネ同一ノ關係ニ於テ會社及ヒ第三者ニ對シ株主ハ又株式會社ノ株主ト

略ホ同一ノ地位ヲ有ス無限責任社員ノ出資ハ金錢其他ノ財產ナルコト普通ナルモ又株式ヲ引受タルコトヲ得サルニ非ス然レトモ株式ヲ引受ケタルカ爲メ其責任有限ト爲ルモノニ非ス唯其引受ケタル株式ニ付テハ他ノ株主ト同一ノ權利ヲ有スルコトヲ得ルノミ

第一　設立

株式合資會社ノ設立ハ定款ノ確定ヲ以テ始マリ創立總會ノ終結ヲ以テ終ル登記ヲ爲スニ非サレハ其設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルハ他ノ會社ト異ナルコトナシ無限責任社員ハ先ツ發起人トシテ定款ヲ作リ株主ヲ募集セサルヘカラス其定款ニ記載スヘキ事項ハ株式會社ノ場合ト略ホ同一ナリ其株主募集ノ方法モ亦同シ而シテ株式總數ノ引受及ヒ第一回ノ拂込アリタルトキハ發起人ハ創立總會ヲ招集シ監査役ヲ選任ス此場合ニ取締役ノ選任ヲ爲ササレハ無限責任社員ハ自ラ監査役ト爲ルコトヲ得ス是レ株式會社ニ於テ取締役ト監査役トノ職務ヲ嚴ニ區分シ取締役ヲシテ監査役ト爲ルコトヲ許ササルト同一ノ精神ニ基キ畢竟職務ノ性質相反スルニ由ルモノナリ又無限責任社員ハ

創立總會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得ルモ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス自ラ株式ヲ引受ケタルトキト雖モ亦同シ

監査役ハ第百三十四條第一項及ヒ第二百三十七條第四號ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス此場合ニ第百三十四條第二項ハ株式合資會社ニ準用セラレサルヲ以テ創立總會ハ特ニ以上ノ事項ヲ調査セシムル爲メ檢査役ヲ選任スルコトヲ得ス創立總會ニ於テ定款ノ變更又ハ設立ノ廢止ヲ決議スルコトヲ得ルコト及ヒ創立總會ノ終結ニ因リテ會社成立スルコト株式會社ノ場合ト異ナラス會社ハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲ササルヘカラス其事項ハ第二百四十二條ニ掲ケタリ

第二　機關

株式合資會社ニハ株式會社ト同シク三箇ノ機關アリ其一ハ無限責任社員其二ハ監査役其三ハ株主總會ナリ無限責任社員ハ會社ノ業務ヲ執行シ會社ヲ代表スル上ニ於テ取締役ト大差ナシ然レトモ總テノ無限責任社員カ常ニ業務執行

及ヒ會社代表ノ任ニ當ルモノニ非スシテ便宜上二三ノ者ヲ選定シテ特ニ其任ニ當ラシムルコト合資會社ノ場合ト異ナル此ノ如ク業務執行社員及ヒ代表社員ヲ特ニ選定スルトキハ他ノ無限責任社員ハ固ヨリ其權能ヲ失フモノトス業務執行社員及ヒ代表社員ノ員數及ヒ任期ニ付テハ取締役ノ如ク法律上ノ制限ナシ又此等ノ社員ハ法律上當然報酬ヲ受クルコトヲ得ス然レトモ定款ヲ以テ利益配當ノ際特別ノ利益ヲ與フルコトハ爲シ得サル所ニ非ス此無限責任社員ハ競業禁止ノ義務ヲ負フコト合資會社ノ無限責任社員ト相同シ

監査役ハ業務ノ執行及ヒ會社財產ノ狀況ヲ監督シ併セテ株主總會ノ決議ヲ實行セシムルコトヲ以テ其職務トス業務及ヒ財產監督ノ點ニ於テハ株式會社ニ於ケル監査役ト異ナルコトナキモ株主總會ノ決議ノ實行ヲ以テ其職務トスルコト大ニ異ナル所ノ要點ナリ蓋シ株式會社ニ於テハ株主總會ノ決議ハ取締役之ヲ實行スヘキモノナレトモ株式合資會社ニ於テハ無限責任社員ト株主ト相對峙シ株主總會ノ決議ハ株主ノミノ意思ヲ發表スルニ過キスシテ社員全體ノ意思ヲ發表スルモノニ非サルヲ以テ業務執行ノ任ニ在ル無限責任社員ハ必ス

シモ之ニ羈束セラルヘキモノニ非ス故ニ株主總會ノ決議ヲ實行セントスルトキハ先ツ無限責任社員ノ同意ヲ得ル必要アリ而シテ其同意ヲ求メテ之ヲ實行セシムルカ爲メニハ監査役ヲシテ其任ニ當ラシムルコト適當ナリトス是レ株式合資會社ニ此特別ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

株主總會ハ株主ヲ以テ組織スル所ノ合議體ニシテ無限責任社員ハ之ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得ルニ止マリ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得ス故ニ此總會ノ決議ハ單ニ株主ノ意見ヲ發表スルニ過キサルコト前述スルカ如シ株主總會ノ招集決議ノ方法等ハ株式會社ノ場合ト同シ

第三　解散

株式合資會社ハ合資會社ト同一ノ事由ニ因リテ解散ス但會社ヨリ解散ヲ裁判所ニ請求スルコトハ此會社ニ於テ認メサル所ナリ此會社ハ無限責任社員ト株主トヨリ成ルモノナルカ故ニ無限責任社員ノ全員カ退社シタルトキハ會社ハ之ニ因リテ解散セサルヘカラス然レトモ此場合ニ於テ殘餘ノ株主カ株式會社トシテ之ヲ繼續セントコトヲ欲スルトキハ敢テ理論ニ拘泥シテ解散ヲ爲サシム

ルコトナク株式會社トシテ之ヲ繼續セシムルコト實際上甚タ便利ナリ唯株式會社ニハ自ラ其組織ニ必要ナル事項アルヲ以テ株主ハ繼續ノ決議ヲ爲スト同時ニ株式會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲモ併セテ決議セサルヘカラス其決議ハ第二百九條ノ規定ニ依ルコトヲ要ス株式會社ノ組織ニ必要ナル事項トハ例ヘハ取締役ノ選任其有スヘキ株式ノ數ノ如シ此繼續ノ決議ヲ爲シタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ株式合資會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ株式會社ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲スヲ要ス

第四　清算

清算ニ付テハ株式會社ノ規定準用セラルルヲ以テ詳說セス其異ナルモノヲ擧クレハ會社カ解散シタルトキハ合併、破產又ハ裁判所ノ命令ニ依リテ解散シタル場合ノ外清算ハ無限責任社員ノ全員又ハ其選任シタル者及ヒ株主總會ニ於テ選任シタル者之ヲ爲ス株主總會ニ於テ選任スル清算人ハ無限責任社員ノ全員若クハ其相續人又ハ其選任セル者ト同數ナルコトヲ要スルコト是ナリ是レ株式合資會社ニテハ無限責任社員ト株主ト相對峙シテ利害ヲ異ニスルコトアルカ故ニ清算ヲシテ兩者ノ爲メ公平ナル結果ヲ得セシメントスル法意ニ出ツルナリ

第五　組織ノ變更

株式合資會社ハ株主總會ノ決議及ヒ無限責任社員ノ一致アルトキハ其組織ヲ變シテ株式會社ト爲スコトヲ得是レ實際上ノ便宜ヲ計リタル規定ニシテ此會社ニノミ特別ナルモノナリ此場合ニ於テハ株主總會ヲ開キテ株式會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス此會社組織ノ變更ハ會社債權者ノ利害ニ大ナル關係アルヲ以テ會社ハ合併ノ場合ニ準シ其變更決議ノ日ヨリ二週間内ニ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作リ債權者ニ對シテ變更ノ承諾ヲ求メ承諾セサル者ニ對シテハ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

商法會社　終

法學士 和仁貞吉講述

商法會社

（三十五年度講義錄）

和佛法律學校發行

商法會社

法學士 吉田 和一郎

(三十五年九月發行)

商法會社目次

總論……一

第一章 會社ノ定義……一

第二章 會社ノ種類……八

第三章 會社ノ設立……一二

第一節 定款ノ作成……一三

第二節 設立ノ登記……一七

第三節 設立ノ免許……二三

第四節 設立行爲ノ性質……二五

第四章 會社ノ住所……二九

第五章 會社ノ營業……三一

第一編 合名會社……三九

第一章 合名會社ノ意義……三九

第二章　合名會社ノ設立……四六
第三章　社員……五一
第一節　社員タル資格ノ取得……五五
第二節　社員タル資格ノ喪失……五七
第四章　會社ノ資産……六三
第五章　會社ノ法律關係……六九
第一節　會社ノ內部ノ關係……七一
第一款　社員ノ義務……七二
第一項　出資……七二
第二項　業務ノ義行……八〇
第三項　競業ノ禁止……八九
第二款　社員ノ權利……九四
第一項　會社ノ機關ニ干與スル權利……九四
第二項　會社財産ノ分配ヲ受クル權利……一〇一

第二節　會社ノ外部ノ關係……一一一
第一款　會社ノ代表……一一二
第二款　社員ノ義務……一一六
第六章　解散……一二一
第一節　解散ノ原因……一二三
第一款　存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル事由ノ發生……一二三
第二款　會社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能……一二四
第三款　總社員ノ同意……一二五
第四款　會社ノ合併……一二五
第五款　社員カ一人ト爲リタルコト……一三一
第六款　破産……一三二
第七款　裁判……一三三

第二節　解散ノ登記……一三五
第七章　清算……一三五
第一節　任意清算……一三七
第二節　法定清算……一三九
第一款　清算人ノ選任及ヒ解任……一四〇
第二款　清算人ノ職務……一四三
第三款　清算ノ結了……一四七
第三節　會社ノ書類ノ保存……一四八
第二編　合資會社……一四九
第一章　合資會社ノ意義……一四九
第二章　合資會社ノ設立……一五〇
第三章　會社ノ法律關係……一五二
第一節　內部ノ關係……一五一
第二節　外部ノ關係……一五五

第四章　退社……一五六
第五章　會社ノ解散及ヒ清算……一五七
第三編　株式會社……一五九
第一章　株式會社ノ意義……一五九
第二章　株式會社ノ設立……一六三
第一節　總論……一六三
第一節　同時設立……一七〇
第二節　漸次設立……一七七
第三節　株主ノ權利義務……一九六
第三章　株式……一九六
第一節　株券……二〇四
第二節　株式ノ得喪……二〇九
第三節　株主ノ權利……二一三
第四節　株主ノ義務……二一八
第五節

第四章　會社ノ機關……二二一
第一節　株主總會……二二二
第二節　取締役……二二八
第三節　監査役……二三六
第五章　會社ノ計算……二四〇
第六章　社債……二四七
第七章　定款ノ變更……二五二
第八章　解散……二六二
第九章　清算……二六四
第四編　株式合資會社……二六九

商法會社目次終

ラス即チ判決ノ理由ハ確定力ヲ有スヘカラサルナリ故ニ履行ノ請求ノ訴訟ニ於テ其原因タル法律關係ノ存否ニ付テモ確定力ヲ生スヘキ判決ヲ得ントスルトキハ第二百十一條ノ規定ニ從ヒ特ニ其法律關係ノ存否確定ノ申立ヲ爲シ判決主文ニ於テ其點ノ裁判ヲ受ケサルヘカラス又判決ノ理由中ニ爲サレタル攻撃若クハ防禦ノ方法其他係爭事實ニ關スル判斷ハ同シク確定力ヲ有スルモノニ非サルナリ但判決主文ニ於テ裁判セラレタル事項ノ果シテ如何ナル法律關係ニ關スルモノナルヤヲ知ルニハ固ヨリ判決ニ掲ケタル事實及ヒ理由ヲ參照スルノ必要アリ故ニ若シ主文ノミヲ以テハ何レノ法律關係ニ基ク請求ノ裁判ナルヤヲ知ルコト能ハサル場合ノ如キモ判決ノ事實及ヒ理由ニ依リテ或特定ノ法律關係ニ基ク請求ニ付テノ裁判ナルコトヲ知リ得ルトキハ其特定ノ請求ノ裁判トシテ確定力ヲ有スルモノトセサルヘカラス

右判決ノ實質上ノ確定力ハ本案ノ請求ニ關シテ生スルモノナルヲ以テ本案ノ請求ニ付キ裁判ヲ爲サスシテ形式上ノ理由ニ基キ訴ヲ却下シタル判決ハ之ヲ有セサルコト勿論ナリ

第二款　判決ノ種別

第一　終局判決

終局判決トハ各審級ニ於テ訴訟ノ全部若クハ一分カ裁判ヲ爲スニ熟セルトキニ爲スヘキ判決ニシテ其訴訟ノ全部若クハ一分ノ終局ヲ告ケシムルモノナリ（第二二五條）訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキトハ必スシモ各攻擊若クハ防禦ノ方法其他總テノ係爭事實ニ付キ判斷ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル場合ノミヲ謂フニ非スシテ例ヘハ原告若クハ被告ノ提出シタル數多ノ獨立ナル攻擊若クハ防禦ノ中其一箇ニ依リテ直チニ請求ノ當否ヲ裁判スルニ足ルトキハ未タ他ノ攻擊防禦ノ方法ノ當否ヲ判斷スル材料ヲ得サルトキト雖モ仍ホ訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟セルモノト謂フコトヲ得其他係爭事實ノ眞否分明ナラサル訴訟ノ程度ニ在リテモ形式上ノ理由ニ基キテ訴訟ヲ却下スヘキ場合又ハ原告カ請求ヲ抛棄シ或ハ被告カ原告ノ請求ヲ認諾シタルニ因リテ直チニ裁判ヲ爲シ得ヘキ場合モ亦同シ此等ノ場合ニ裁判所カ一旦終局判決ヲ爲シタルトキハ訴訟ハ其裁判所ヨリ離脫シ其後ハ唯上級審ヨリ差戻ヲ受ケタルトキニ於テ再ヒ其訴訟ノ繫屬スルコトアルノミ

終局判決ハ必スシモ本案ノ請求即チ實體上ノ權利ニ付テ爲シタルモノノミヲ謂フニ非ス苟モ訴訟ノ全部若クハ一分ノ終局ヲ告ケシムルモノハ請求權ノ實質ニ付テ下シタルモノナルト形式上ノ理由ニ基キテ下シタルモノナルトヲ問ハス總テ之ヲ終局判決ト謂ハサルヘカラス故ニ訴訟ノ必要條件ヲ缺クノ理由ヲ以テ訴ヲ却下スル判決故障又ハ控訴上告ヲ不適法トシテ棄却スル判決ノ如キモ之ニ因リテ其訴訟ハ終局ヲ告クルモノナルヲ以テ是レ亦終局判決ナリトス控訴審ニ於テ第四百二十二條、第四百二十三條ノ規定ニ依リ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻ス判決ハ終局判決ナルヤ又ハ中間判決ナルヤノ問題ニ付テハ學者間ニ於テ議論一定セス我民事訴訟法ノ解釋トシテハ頗ル困難ナル問題ニ屬スルモ右差戻ノ判決ハ其性質上ヨリ論スレハ寧ロ終局判決ニ屬スルモノナリトスルヲ至當ト信ス何トナレハ該判決ハ終局判決ノ準備トシテ爲スモノニ非スシテ之ニ依リテ其訴訟事件ハ直チニ控訴審ヲ離脫シ同審ニ於テハ全ク終局ヲ

告クルモノナルヲ以テナリ（第百九十一條ノ規定ニ從ヒ一人若クハ數人ノ原告ヨリ一人若クハ數人ノ被告ニ對シ一ノ訴ヲ以テ數箇ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ全ク終局判決ハ訴訟ノ全部ニ係ルモノト其一分ノミニ關スルモノトアリ即チ裁判所ハ訴訟ノ一分ノミカ裁判ヲ爲スニ熟スルトキモ亦其一分ニ付キ終局判決ヲ爲スヲ得ルモノナリ故ニ全部判決ト一分判決トノ區別ハ終局判決ノ細別ニ過キス全部判決トハ一箇ノ訴訟ノ全部カ裁判ヲ爲スニ熟セルトキ其全部ニ付キ爲ス所ノ判決ナリ裁判所カ第百二十條ノ規定ニ依リテ同時ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス爲メニ數箇ノ訴訟ヲ併合シタル場合ニ於テモ其中一箇ノ訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟セルトキハ亦其訴訟ニ付キ終局判決ヲ爲スヘキモノナリ（第二二五條第二項）此場合ハ裁判所ノ併合審理ノ手續上ヨリ觀レハ其一部分ノミカ完結シタルニ過キサルヲ以テ一分判決ナルカ如キ觀アルモ其一箇ノ訴訟ニ付テハ全部ニ亘リテ判決ヲ爲スモノナルヲ以テ是レ亦全部判決ナリ一分判決トハ訴訟ノ一分カ裁判ヲ爲スニ熟セルトキ其一分ニ付キ爲ス所ノ判決ナリ訴訟ノ一分ニ付キ判決ヲ爲ストハ第四十八條、第百九十一條ノ規定ニ從ヒ一人若クハ數人ノ原告ヨリ一人若クハ數人ノ被告ニ對シ一ノ訴ヲ以テ數箇ノ請求ヲ爲シタル場

合ニ其中ノ一二ノ請求ニ付キ又ハ一箇ノ可分ノ請求ノ一部分ニ付キ又ハ反訴ノ提起アリタル場合ニ本訴若クハ反訴ノミニ付キ判決ヲ爲スヲ謂フ（第二二六條第一項）右ノ如ク訴訟ノ一分ニ付キ數次ニ一分判決ヲ爲シタルトキハ各判決ハ其訴訟ノ一分ヲ終局セシムルヲ以テ全部判決ト同樣ニ之ニ對シテ獨立ノ上訴ヲ爲スコトヲ得ヘク隨テ其各判決ハ獨立シテ確定力ヲ得ルニ至ル一分判決ハ必ス之ヲ爲スコトヲ要スルモノニ非ス縱令請求ノ一部カ裁判ヲ爲スニ熟スルモ裁判所ニ於テ事件ノ狀況ニ從ヒ一分判決ヲ爲スヲ相當ト認メサルトキハ之ヲ爲スニ及ハサルモノナリ（第二二六條第二項）

第二　中間判決

中間判決ハ訴訟ノ全部若クハ一部ヲ終局セシムルモノニ非スシテ其終局ニ進スル準備トシテ訴訟ニ於ケル或爭點ニ關シテ爲ス所ノ判決ナリ故ニ中間判決ノ目的ト爲ル事項ハ若シ其判決ヲ爲ササルトキハ終局判決ノ理由中ニ於テ判斷ヲ爲スヘキ事項ニ屬ス蓋シ法律カ中間判決ヲ爲スコトヲ許スハ通常當事者カ種種ノ獨立ナル攻擊方法又ハ防禦方法ヲ提出シタルトキ又ハ中間ノ爭ヲ生

シタルトキ其各箇ノ方法又ハ爭カ裁判ヲ爲スニ熟スル場合ニ於テ訴訟ノ紛雜ヲ避ケ容易ニ其終局ニ達スルコトヲ得セシメンカ爲メナレハ果シテ中間判決ヲ爲スノ利便アルヤ否ヤノ判定ハ原則トシテ一ニ裁判所ノ意見ニ任シ必ス之ヲ爲スヘキコトヲ命令セス隨テ裁判所ハ便宜ニ從ヒテ中間判決ヲ爲スノ權能ヲ有スルノミニシテ其義務アルモノニ非ス唯例外トシテ既ニ說明シタル第二百七條ニ於テ妨訴ノ抗辯ヲ棄却スヘキ場合及ヒ第三百五十一條ノ規定ニ於テ證書ノ眞否確定ノ申立アリタル場合ニハ中間判決ヲ以テ裁判ヲ爲スコトヲ命スルノミ

獨立ナル攻擊方法若クハ防禦方法トハ請求ヲ正當ナリトシ若クハ之ヲ不當ナリトスル理由トシテ提出スル事實上ノ主張ニシテ其各箇ニ依リテ請求ノ當否ヲ判斷スルニ足ルモノヲ謂フ故ニ其主張ノ正當ナルトキハ之ニ依リテ終局判決ヲ爲スコトヲ得ヘキモ然ラサルトキハ之ヲ排斥スルノ中間判決ヲ爲スコトヲ得ルナリ例ヘハ原告カ所有權ヲ基礎トスル訴ニ於テ讓渡、時效、相續等ノ事實ヲ併セテ主張シ又ハ被告カ貸金請求ノ訴ニ於テ辨濟、時效、混同等ノ事實ヲ併セテ主張シタル場合ノ如キ口頭辯論ニ於テ先ツ其一箇ノ方法ノ不當ナルコトヲ認ムルヲ得ルニ至リ其點ノ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ中間判決ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ而シテ此ノ如ク當事者カ數多ノ攻擊方法又ハ防禦方法ヲ提出シタル場合ニ於テハ先ツ其一二ニ限リテ辯論ヲ爲サシムルコトヲ得ルハ第百十九條ノ規定スル所ナリ但辯論ノ制限ハ中間判決ヲ爲スノ必要條件ニ非ス

中間ノ爭トハ訴訟進行ノ中間ニ於テ其訴訟ニ付キ生シタル形式上ノ爭ニシテ決定ヲ以テ裁判スヘカラサルモノヲ謂フ例ヘハ訴ノ變更ノ有無ニ付テノ爭、訴ノ取下ノ適法ナルヤ否ヤニ付テノ爭ノ如キ是ナリ口頭辯論中ニ斯ル爭ヲ生シタルトキハ必ス終局判決ノ理由ニ於テ其當否ノ判斷ヲ爲ササルヘカラサルハ實體上ノ攻擊防禦方法ヲ提出シタル場合ト同一ナリ故ニ此場合ニ於テモ終局判決ヲ爲スニ先チ特ニ其爭點ニ關シ中間判決ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ勿論右爭點ノ判斷ニ因リテ直チニ訴ヲ却下スル終局判決ヲ爲スヘキトキハ中間判決ヲ爲スノ餘地ナク其反對ノ場合ニ於テノミ終局判決ヲ爲スノ準備トシテ先ツ中間判決ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ而シテ從參加人ト當事者トノ間ニ生シタ

ル參加ノ當否ニ付テノ爭證人ト當事者トノ間ニ於ケル證言拒絶ノ當否ニ付テノ爭ノ如キハ第五十七條及ヒ第三百一條ノ規定ニ依リ何レモ皆決定ヲ以テ裁判スヘキモノニシテ茲ニ所謂中間ノ爭トシテ中間判決ヲ爲スヘカラサルモノナリ

以上ノ說明ニ依リテ之ヲ觀レハ第二百七條第二項ニ規定セル妨訴ノ抗辯ヲ棄却スル判決ハ中間判決ニ屬スルコト疑ヲ容ルヘカラス此他妨訴ノ抗辯ニ關スル判決ニ付テハ前ニ說明セシヲ以テ茲ニ贅言スル必要ナキモ請求ノ原因ニ關スル判決ニ付テハ少シク說明セサルヘカラス即チ第二百二十八條第一項ニ曰ク「請求ノ原因及ヒ數額ニ付キ爭アルトキハ裁判所ハ先ツ其原因ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得」ト是レ亦一般中間判決ヲ許スト同一旨趣ニ出テタルモノナルヲ以テ特ニ其裁判ヲ爲スト否トハ一ニ裁判所ノ意見ニ在リ而シテ之ヲ爲スニ付テハ通例辯論ノ制限ヲ命スヘケレトモ然ラサル場合ニ於テモ亦同シク其裁判ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ唯此裁判ヲ爲スニ付テハ請求ノ原因及ヒ其數額ノ孰レニ付テモ爭アルコトヲ必要トス若シ其一ニ付キ爭ナキトキハ固ヨリ原因

テモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ故ニ附帶控訴ハ公廷ニ於テ其申立ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ(第二)主タル控訴ヲ爲スニハ必ス其申立書ヲ差出サヽルヘカラスト雖モ附帶控訴ヲ爲スニハ必スシモ申立書ヲ差出スニ及ハス故ニ附帶控訴ハ公廷ニ於テ口頭ヲ以テ之ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ(第三)附帶控訴ハ控訴裁判所ノ檢事モ亦之ヲ爲スコトヲ得レトモ主タル控訴ハ控訴裁判所ノ檢事ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ス(第四)主タル控訴ヲ取下クルトキハ附帶控訴ハ當然其效力ヲ失フモ附帶控訴ヲ取下クルモ主タル控訴ハ其效力ヲ失フモノニ非ス主タル控訴ニ對シテノミ判決ヲ下シ附帶控訴ニ對シ何等ノ判決ヲ下サヽルハ請求ヲ受ケタル事件ニ付キ判決ヲ爲サヽルモノニシテ違法ノ判決タルヲ免レス又大審院ニ於テ甲控訴院ノ判決ヲ破毀シ事件ヲ乙控訴院ニ移シタルトキト雖モ甲控訴院ニ於テ檢事若クハ被告ノ爲シタル附帶控訴ハ消滅スルモノニ非ス故ニ乙控訴院ハ其附帶控訴ニ對シテモ判決ヲ爲サヽルヘカラス若シ之ヲ爲サヽルトキハ請求ヲ受ケタル事件ニ付キ判決ヲ爲サヽル違法アルモノトス

第一審判決ニ對シ檢事カ爲シタル刑期輕キニ失ストノ附帶控訴ハ被告ノ控訴

ト其性質上一致スベキモノニ非ス故ニ其場合ニ於テ檢事ノ附帶控訴ヲ理由アリトシ第一審判決ヲ取消シ第一審判決ヨリ重キ刑ヲ言渡スニ當リ被告ノ控訴ヲ理由アリト說明シタル判決ハ不法ナリトス然レトモ若シ其場合ニ於テ被告ノ控訴ヲ理由アリトシ第一審判決ヲ取消シ無罪ヲ言渡ストキハ檢事ノ附帶控訴ヲ理由アリトスルヤ否ヤ此疑問ニ對シテハ二說アリ第一說ハ檢事ノ附帶控訴ハ相立タサルヲ以テ理由ナシトシテ之ヲ棄却スヘシト主張シ第二說ハ檢事カ獨立シテ刑期輕キニ失セリトシテ控訴ヲ提起シタル場合ト雖モ裁判所カ無罪ノ心證ヲ得タルトキハ檢事ノ控訴ヲ理由アリトシテ第一審判決ヲ取消シ無罪ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ル以上ハ檢事ヲ被告ノ控訴ニ附帶シテ控訴ヲ爲シタル場合ト雖モ無罪ノ心證ヲ得タルトキハ其附帶控訴モ亦理由アリト謂ハサルヘカラス故ニ檢事ノ附帶控訴ヲ理由アリトスルヲ以テ相當ナリト主張セリ、甲控訴院ノ爲シタル判決ニ對スル再審ノ訴ヲ理由アリトシテ該判決ヲ破毀シ乙控訴院ニ事件ヲ移シタル場合ニ於テ乙控訴院ノ檢事ハ被告ニ不利益ナル附帶控訴ヲ爲スコトヲ得サルモノトス何トナレハ再審ノ訴ハ被告ノ利益ノ爲メニ許シタルモノニシテ再審ノ爲メ事件ヲ移サレタル以上ハ被告ノ利益ノ爲メ審判ヲ爲スヘキモノナレハ其目的ニ反スル不利益ノ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得サルハ當然ナレハナリ

(二) 如何ナル判決ニ對シ控訴ヲ爲スコトヲ得ヘキカ、控訴ハ或裁判所カ第一審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ公訴不受理又ハ管轄違ノ申立ヲ却下シタル本案前ノ判決ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ其判決カ區裁判所ノ爲シタル判決ナルト地方裁判所ノ爲シタル判決ナルトヲ問ハス又其判決カ言渡シタル刑期ノ長短若クハ金額ノ多寡ニ拘ハラサルモノトス故ニ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ事件ヲ地方裁判所ニ於テ審判シタル場合ト雖モ其判決ニ對シテ控訴ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ本案ノ判決ニ對シテハ總テ控訴ヲ爲スコトヲ許スモ本案前ノ判決ニ付テハ公訴不受理又ハ管轄違ノ申立ヲ却下シタル場合ニ非サレハ控訴ヲ爲スコトヲ許サス本案前ノ裁判ハ前ニ述ヘタル如ク其種類尠カラス故ニ若シ其裁判ニ對シ一一控訴ヲ爲スコトヲ許ストセハ徒ニ本案ノ裁判ヲ遲延セシムルノ虞アルヲ以テ之ヲ許ササルモノナレトモ公訴不受理又ハ管轄

遠ノ申立ヲ却下スル判決ハ本案ニ影響ヲ及ホスヘキ裁判ニシテ若シ此判決ニ對シ控訴ヲ許ササルトキハ受訴裁判所ハ進ミテ事實ノ取消ヲ爲シ本案ノ判決ヲ爲ササルヘカラス而シテ本案ノ判決ヲ言渡シタル後控訴審ニ於テ其事件ハ公訴不受理又ハ管轄違ト爲リタルトキハ受訴裁判所カ本案ノ審判ヲ爲シタルコトハ全ク徒勞ニ屬スルヲ以テ公訴不受理又ハ管轄違ノ申立ヲ却下シタル本案前ノ裁判ニ對シテハ直チニ控訴ヲ爲スコトヲ許シタルモノナリ(第一八七條)

(三) 控訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ハ通則ニ於テ叙述シタル上訴ヲ爲ス權ヲ有スル者ニ外ナラサルヲ以テ茲ニ之ヲ贅セス

(四) 控訴期間ハ判決ノ言渡アリタル日ヨリ五日間ナリトス(第二五二條第一項)然レトモ闕席判決ニ對シ故障ヲ爲サスシテ直チニ控訴ヲ爲ス場合ニ於テハ其期間ハ故障期間ト同一ナルヲ以テ罰金以下ノ刑ニ付テハ判決ノ送達アリタル日ヨリ三日間ナリトシ禁錮以上ノ刑ニ付テハ被告人自ラ判決ノ送達ヲ受クルカ又ハ判決ノ執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル日ヨリ三日間ナリトス(第二二九條)次ニ第二ノ闕席判決ニ對スル控訴期間ハ何日ナリヤト云フニ其五日ナルコトハ論ヲ俟タサル所ナリト雖モ其五日ハ何レノ日ヨリ起算スルカ即チ判決言渡アリタル日ヨリ起算スヘキカ將タ判決送達ノ日ヨリ起算スヘキカ刑事訴訟法第二百五十二條第一項ノ規定ニ依レハ「控訴ノ期間ハ判決言渡アリタル日ヨリ五日トス」トアリテ第二ノ闕席判決ニ對スル控訴期間モ一見判決言渡ノ日ヨリ起算スヘキカ如シト雖モ若シ判決言渡ノ日ヨリ之ヲ起算スルモノナリトセハ被告ニ於テハ判決アリタルコトヲ知ラサルニ其判決ハ既ニ確定スルニ至ルヘシ闕席判決ハ元來假設ノ判決ナリ故ニ被告ニシテ其言渡アリタルコトヲ知リナカラ或期間内ニ不服ヲ申立テサレハ之ヲ確定シタルモノトスルモ妨ナカルヘシト雖モ被告ニ其言渡アリタルコトヲ知ラシムルノ途ヲ盡サスシテ之ヲ確定シタリト云フハ是レ其當ヲ得タルモノト謂フヘカラス若シ被告ニ其言渡アリタルコトヲ知ラシムルノ途ヲ盡ササルモノナリトセハ第二ノ闕席判決ハ假設ノ判決ニ非スシテ闕席者ニ對スル懲罰タルノ性質ヲ有スルニ至ルヘク又第二ノ闕席判決ニ對シテハ控訴ヲ許ササルト同一ノ結果ヲ生スルニ至ルヘシ故ニ予ハ第二ノ闕席判決ニ對スル五

日ノ控訴期間ハ罰金以下ノ刑ノ言渡ニ付テハ判決ノ送達アリタル日ヨリ起算シ禁錮以上ノ刑ノ言渡ニ付テハ被告本人自ラ判決ノ送達ヲ受クルカ又ハ判決ノ執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル日ヨリ起算スルヲ以テ穩當ナリト信スル者ナリ

附帶控訴ニ付テハ別ニ期間ノ設ナシ故ニ附帶控訴ハ主タル控訴ノ判決アルニ至ルマテ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘク辯論終結後ト雖モ之ヲ爲スハ妨ナカルヘシ(第二五九條第一項)

期間經過後ニ係ル控訴ノ申立アリタルトキハ原裁判所ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スルコトヲ得ヘシ是レ被告人及ヒ訴訟記錄ヲ控訴裁判所ニ送致スルノ煩ヲ避ケンカ爲メニ設ケタル便法ニ外ナラス但此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第二五五條)然レトモ原裁判所ニ於テ期間經過後ノ控訴ナルニ心付カスシテ被告人並ニ訴訟記錄ヲ控訴裁判所ニ送致シタルトキハ控訴裁判所ハ公廷ヲ開キ以テ控訴ヲ棄却セサルヘカラス

(五) 控訴申立ノ方式ハ控訴申立書ヲ原裁判所ニ差出スニ在リ(第二五四條)

(六) 控訴ノ效果ニ二アリ即チ左ノ如シ

(イ) 控訴ハ事件ヲ控訴裁判所ニ繫屬セシムルノ效力アルモノトス故ニ控訴裁判所ハ事實上ト法律上トヲ問ハス總テ事件ノ覆審ヲ爲スモノナリ但此效力ニハ三箇ノ制限アリ

(1) 控訴ハ事件ヲ控訴裁判所ニ繫屬セシムルモノナリト雖モ其覆審ヲ爲スハ控訴申立書ニ記載シタル部分ノミニ止マリ其他ニ及フヘカラサルモノトス故ニ例ヘハ公私訴ノ判決アル場合ニ於テ被告カ公訴判決ノミニ對シ控訴ヲ爲シタルトキハ覆審ヲ爲スハ公訴ノミニ止マリ私訴ニ及フヘカラス又被告カ私訴判決ノミニ對シ控訴ヲ申立テタルトキハ其覆審ヲ爲スハ私訴ノ部分ノミニ止マリ公訴ニ及フヘカラサルカ如シ

(2) 控訴ハ一ノ疑問ト爲ルヘキモノアリ他ナシ數箇ノ重、輕罪アリト認メ刑ノ言渡ヲ爲シタル判決ニ對シ被告カ一ノ重キ重罪ノ點ノミニ付キ不服アリトシテ控訴ヲ爲シタルトキハ控訴裁判所ハ一ノ重キ重罪事件ニ付テノミ覆審ヲ爲スヘキカ將タ數箇ノ重、輕罪全部ニ對シテ覆審ヲ爲スヘキモノナルカ云フ

ニ在リ此問題ニ付テハ二說アリ第一說ニ於テハ控訴審ニ繫屬スルハ被告カ不服ヲ申立テタル一ノ重キ重罪事件ノミナルヲ以テ覆審ヲ爲スハ其部分ノミニ止マリ其他ニ及フヘカラス被告カ不服ヲ申立テサル他ノ部分ニ付テハ第一審判決ハ既ニ確定シタルモノナレハ刑法第百二條ノ餘罪俱發例ニ依リ處分セサルヘカラスト主張シ第二說ニ於テハ一ノ重キ重罪事件ノミニ對シ控訴ヲ申立テタリト雖モ數罪俱發例ニ依リ處斷シタルモノナルトキハ他ノ犯罪ハ牽連シテ相離ルヘカラサルモノナルヲ以テ總テノ事件ニ付キ覆審ヲ爲シ刑法第百條ノ數罪俱發例ニ從ヒ處斷セサルヘカラスト主張セリ大審院ノ判例ハ從前ハ第一說ノ如クナリシモ最近ノ判例ニ於テハ第二說ヲ採用シタリ

(2) 控訴ハ事件ヲ控訴裁判所ニ繫屬セシムルモノナリト雖モ其覆審ヲ爲スハ控訴ノ性質ニ依リ制限セラルルモノトス故ニ民事原告人ノ控訴ハ私訴判決ニ對シテノミ其效ヲ有シ公訴判決ニ對シテハ其效ヲ生セス又檢事ノ控訴ハ公訴判決ニ對シテノミ其效ヲ有シ私訴判決ニ對シテハ其效ヲ生セス次

地ノ生產力ヲ消耗スルノ弊アルノミナラス之カ契約締結ノ手數ヲ重ヌルヲ以テ一方ニハ地價ノ昂騰ヲ來スヘキ時期ヲ超エサルコトヲ要スルト共ニ一方ニハ小作人ヲシテ其勞力ト資本トヲ投下スルニ足ルヘキ充分ノ餘裕ヲ與ヘサルヘカラス獨逸ニ在リテハ年期小作ノ期限ハ通常十年ヲ下ルコトナキヲ例トス爲セリ然レトモ英國等ニ在リテハ其期間ノ長短ニ拘ハラス之カ期限ノ到來ニ際シテハ小作人ハ勢ヒ成ルヘク經費ヲ節略シテ土地ノ生產力ヲ消耗スルノ憂アルヲ以テ期限ノ終ニ在リテハ小作人カ土地ノ改良等ニ支出セシ經費ニ對シテ相當ノ報償ヲ與フルコトアリ其他官有地ノ肥料牧草等ハ總テ官有土地ニ使用スヘキモノトシ官有土地ノ小作人ハ政府ノ小作地以外ノ小作ヲ爲スヘカラスト爲ス等各種ノ制限ヲ設ケテ官有土地ノ生產力ヲ保護スルヲ例ト爲セリ其他獨逸等ニ在リテハ土地ヲ外一定ノ器具機械家畜建造物等ヲ同時ニ貸與シテ特別ノ小作法ヲ契約スルコトアリ隨テ歐洲ニ在リテハ小作人ノ保證金制度モ亦重要ナル問題ニ屬セリ

(乙) 世襲小作法　世襲小作法トハ永久ニ世襲シテ小作セシムルノ法ニシテ一

般ニ其小作人ヲシテ體地權ヲ相續セシムルガミナラス又之ヲ一定ノ條件ノ下ニ賣買スルコトヲ許シ其土地ノ拂下ニ對シテハ之カ公賣ニ付キ優先權ヲ與フルヲ例トス爲セリ此法ハ古來ヨリ官有財産ト關聯シテ羅馬ノ市邑ノ共有地ニ於テ發生シ中世ニ至リテモ寺院ハ多ク此制度ヲ採リタリ此法ハ其實質ニ於テハ義務ノ不履行ニ對シ救正權ヲ附帶セル一種ノ買戻約款附賣買ト看ルコトヲ得ヘク時代ノ變遷ニ伴ヒテ小作料ノ實價ニ變動ヲ來スノ弊ナキニ非サルモ土地ノ生産力ヲ涸渴セシムルノ憂少ク監督經費ノ煩累ヲ避ケテ一定ノ地代ヲ得ルカ故ニ一般ニ公共團體ノ採用スル手段タリ

第三款　官有土地ノ利害

官有土地收入ノ利益ト其收入カ自然力ヨリ生スル特種ノ所得タル點ヨリ土地私有制度ヲ全廢シテ總テ之ヲ國家ノ手ニ歸一セシムヘシト爲ス說ハ若シ買收法ニ依ラサル無償ノ國有還制歸屬論トスレハ固ニ不正不法ノ手段タルノミナラス私有財産ノ基礎確立セシ今日ニ於テハ不能ニ屬スル空論ト謂ハスンハ非ス又若シ買收ニ依ル國有論トスレハ之カ買收金額買收ノ手續之カ經營ニ關スル實際問題ヲ顧ミサル架空ノ僻論ト謂ハスンハ非ス故ニ茲ニハ官有土地拂下ノ可否即チ保存ノ是非ニ付キ其大要ヲ講述スヘシ

官有土地保存論ハ前世紀ニ在リテハ「ユスチー」等カ租稅ニ優レル財源トシテ唱道セル所ニ係ルモ重農學派及ヒ「アダム、スミス」派カ之ニ對シテ絕對ノ拂下論ヲ主張シテヨリ今世紀ノ中葉ニ至リ「ラウ」等カ社會政策問題ニ關聯シテ之ニ反對ヲ爲ス者尠シト爲ササレトモ大體ニ於テハ各國皆拂下ノ方針ヲ採ルモノノ如シ然レトモ此等學說ノ岐ルル所ハ理論ノ是非ニ非スシテ寧ロ時ト處トニ依リ實際問題ニ歸著スルコト多キヲ以テ固ヨリ絕對ニ之カ可否ヲ論斷スヘキモノニ非ス今兩者所說ノ大要ヲ列擧スレハ次ノ如シ

第一　官有土地拂下論

(甲)　絕對ノ理由

(一)　財政上ノ理由

(イ)　官吏ハ利害關係比較的薄キヲ以テ之カ管理ニ冷淡ニシテ徒ニ事務ノ

煩雜ヲ來シ時ト勞力トノ冗費ヲ大ニスルコト

(ロ) 生產物ノ賣却其他私人經濟上ノ行動ニ屬スヘキ敏活ヲ要スル事務ハ之ヲ法規ノ下ニ支配セラルル政府ノ行動ニ於テ期シ難キコト

(ハ) 官有土地ノ制ハ人民ノ耕地ヲ減少スルカ故ニ結局却テ人民ノ實際上ノ負擔ヲ增加スルニ至ルコト

(二) 經濟上ノ理由

(イ) 私經濟ノ行動ハ密著ノ利害關係ヲ有スル當事者ノ敏活ナル行動ニ依ラスンハ之カ生產ヲ大ニスルコト能ハサルコト

(ロ) 官有土地ノ經營ハ土地ノ生產力ヲ涸渴シ一般ノ通弊タル保守的政策ノ下ニ之カ充分ノ改良進步ヲ期シ難キコト

(三) 政治上ノ理由

(イ) 土地ノ主體タル國家ト公共經濟ノ主體タル國家ト利害ノ衝突ヲ來シ又政府ト一般地主間ニ於テ不法ノ競爭ヲ來スコト

(ロ) 官有土地ノ收入亘額ニ上ルトキハ議會ノ財政上ノ制限及ヒ監督ヲ受クヘキ範圍比較的縮少セラルルヲ以テ政府ノ專權ヲ助長スルニ至ルコト

(乙) 相對ノ理由

(一) 消極的政策トシテ官有財產ノ拂下ニ依リ害毒ノ大ナル租稅ノ廢止、重稅率ノ輕減、公債ノ償還其他ノ費途ニ充ツヘキコト

(二) 積極的政策トシテ官有財產ノ拂下ニ依リ尙ホ必要ニシテ且有利ナル事業ノ設備經營ニ充ツヘキコト

第二　官有土地保存論

(甲) 財政上ノ理由

(一) 反對論者ノ財政上ノ批難ハ少クトモ地方團體ノ公有土地ニ對シテ該當セサルノミナラス近時小作法其他各種ノ方便ニ依リ之カ弊害ヲ除去スルニ至リタルヲ以テ所謂反對論者ノ財政上ノ批難ハ却テ民有ノ大農制ニ於テ其大ナルヲ見ルコト

(二) 官有土地ノ價額及ヒ收入ハ文化ノ進步ト人口ノ增加ニ伴ヒ年年遞增ス

ルモノナルヲ以テ官有土地ノ拂下ヲ爲スハ目前ノ小利ヲ得ルカ爲メニ將來ノ大利ヲ捨ツルモノナルコト

(三) 所謂官有土地ノ社會ニ及ホス不便不利ト稱セラルルモノハ租稅ニ比シテハ少キコト固ヨリ論ナク若シ之カ管理宜キヲ得シニハ積極ニ國家ニ一ノ財源ヲ造リ延テ國民ノ負擔ヲ減少スルモノタルコト

(四) 官有土地ハ政府ノ信用ヲ維持スル方便ニシテ公債ノ募集其他ノ信用取引ヲ容易ナラシムルコト

(乙) 經濟上ノ理由

(一) 軍事上又ハ勸業上ノ目的ヨリ官有土地ヲ必要トスル場合多タ殊ニ農業ノ模範トシテ特種ノ農業ノ改良、發達ヲ來スコト

(二) 大農制殊ニ大地主ノ下ニ在ル不生產ナル請負制度ノ弊害少キコト

(丙) 政治上ノ理由

(一) 小作制度改良ノ先驅ト爲リテ一般ノ農業ノ制度組織ノ改良ヲ來スコト

(二) 元首ノ所得ニ對シ獨立ノ財源ヲ造ルコト

(三) 社會政策上大地主制ノ弊害ヲ除去シ自作農夫ノ扶植ヲ來スコト

上述ノ如ク官有土地保存ノ可否ハ一利一害ニシテ到底之ヲ箇箇ノ事實問題ニ讓ルノ外ナキモ一方ニハ新ニ官有土地ヲ買上クル必要ナキト共ニ又一方ニハ官有土地ノ經費多キニ過クルモノハ又强ヒテ之ヲ保存スルノ必要ヲ見ス但土地拂下ノ場合ニハ其土地ノ廣狹、拂下ノ時期等ニ付キ總テ愼重ナル措置ヲ採リ成ルヘク數多ノ自作農夫ニ拂下クルコトヲ要スルハ既ニ述ヘタル所ノ如シ

第二節　官有森林

第一款　官有森林ノ意義

森林トハ樹木ノ繁茂セル地面ヲ指スモノナレトモ英吉利及ヒ獨逸等ニ在リテハ特ニ君主カ狩獵ノ目的即チ鳥獸等ヲ保存スルカ爲メニ領有スル地面ヲ指シテ森林ト稱スルコトアリ然レトモ茲ニ所謂森林トハ樹木ノ繁茂セル土地ヲ指スモノニシテ其政府ノ所有ニ屬スルモノヲ官有森林ト謂フ

森林ハ其標準ノ異ナルニ從ヒ各種ノ分類ヲ爲スコトヲ得ヘシ即チ其所在地ノ

狀況ヲ標準ト爲ストキハ之ヲ山林及ヒ平林ニ分ツコトヲ得ヘク其土地ノ性質ヲ標準ト爲ストキハ絶對的森林及ヒ相對的森林ト爲スコトヲ得ヘク其森林ノ效用ヲ標準ト爲ストキハ收入林(又供用林)施業林トモ謂フ)及ヒ保安林(又保存林、保護林トモ謂フ)ニ分ツコトヲ得ヘク其所有權ノ存在ヲ標準ト爲ストキハ御料林、國有林、郡分林、公有林、社寺林及ヒ私有林ノ六種ト爲スコトヲ得ヘシ(明治三十二年法律第四十六號森林法參照)

森林ノ效用ハ直接ニハ木材、薪炭等ノ主産物樹液、果實、菌蕈等ノ副産物ヲ無限ニ生産シ得ヘキノミナラス間接ニハ土砂ノ壞崩、流出及ヒ飛砂、頽雪、墜石、風、水、海潮等ノ災害ヲ豫防シ水源ヲ涵養シ風土氣候ヲ調和シ山水ノ風致ヲ保存スル等森林ノ經營ハ公共ノ利害ニ重大ナル關係ヲ保持スルヲ以テ(森林法第八條參照)私人ノ不能ノ欲望ニ屬スヘキ場合尠カラサルノミナラス又私人可能ノ欲望ニ屬スルモ森林其モノノ本來ノ目的ハ相對的不正ノ欲望又ハ私人ノ滿足スルコトヲ欲セサル欲望亦多シトス所謂一部ノ論者カ森林ヲ官有ト爲スヘシト曰ヒ延テ森林收入ハ無償收入ナリト論シ又ハ森林ハ國ノ公産ナリト論スル者アルニ至ルハ要スルニ森林ノ間接效用著大ナルニ基因セリ

第二款　官有森林ノ利害

森林ヲ官有ト爲スヘキ理由ハ一言ニシテ之ヲ蔽ヘハ森林事業ハ公益事業ナリト云フニ外ナラス故ニ之カ是非ハ第一、國家カ森林ノ經營ニ當レル場合ニ於ケル效果第二、純然タル利己心以外ノ動念カ森林ノ所有者ニ及ホス勢力即チ私人ノ行爲ニ依リテ障害セラルル公益ノ分量ノ二點ヲ決スルヲ以テ足レリトス

第一　消極ノ理由　森林官有ノ消極的理由トハ森林ヲ官有ト爲スモ私人カ森林ヲ經營スル場合ニ比シテ毫モ其直接及ヒ間接ノ效果ヲ削減スルコトナキノミナラス森林經營本來ノ目的ハ却テ官業ニ適當ナルモノニシテ之ヲ總論財政ノ範圍ノ章ニ對スレハ正ニ私人ノ不能ニ屬スル正當ノ欲望及ヒ私人ノ可能ニ屬シテ私人ノ一般ニ滿足スルコトヲ欲セサル正當ノ欲望ノ二者ヲ包含スルコトヲ謂フモノナリ今森林ヲ官有ト爲スヘキ消極的理由ヲ細別スレハ次ノ如シ

(甲)　森林事業ハ疎放的ナルコト　森林ノ事業即チ樹木ノ扶植培養及ヒ採伐ハ

森ヨリ營林ノ學識ト經驗トヲ要スル地農業ノ如ク集約的ニシテ複雜ナル勞力ヲ要スルモノニ非ス隨テ政府カ之ヲ經營スルニ當リテ毫末官有土地管理ニ付テ受クルカ如キ批難ヲ生スルノ憂サラ却テ直接管理法ヲ以テ便宜トスル所ナリ是レ官有土地ノ管理ノ批難ハ主トシテ耕地ノ性質ハ私人カ小仕掛ニ依リテ熱心ナル熟練ト注意トヲ要スヘキニ基因スルニ反シ森林ノ性質ハ私人ニ於テモ所謂小仕掛ノ經營ヲ許ササルモノナレハナリ

(乙)　森林ノ事業ハ巨額ノ資本ヲ要スルコト　森林事業カ巨額ノ資本ヲ要スルハ主トシテ次ノ三理由ニ基ケリ

(イ)　森林ノ利潤ハ他ノ事業ニ比シテ些少ナルコト

(ロ)　森林ノ收穫ハ長年月ヲ要スルコト

(ハ)　森林ノ生産物ハ之ヲ市場ニ運搬スル爲メ交通機關ノ設備維持及ヒ之カ運送ニ付キ巨額ノ費用ヲ要スルコト

第二　積極ノ理由　森林官有ノ積極的理由トハ森林ハ之ヲ民有ト爲スヘカラサル場合多キノミナラス之ヲ官有ト爲スコトハ財政上利益多キモノニシテ之ヲ總論財政ノ範圍ノ章ニ對スレハ私人ノ可能ニ屬スル相對的不正ノ欲望ト看ルヘキ所以ヲ指スモノナリ今森林ヲ官有トスヘシトノ積極的理由ヲ大別スレハ次ノ如シ

(甲)　森林事業ハ公益上官有ト爲スヘキコト　森林事業ハ巨額ノ資本ヲ要スルニ拘ハラス之カ收穫ニ長年月ヲ要スヘキコトハ既ニ上述スル所ノ如シ故ニ之ヲ私人ノ修理ニ委スルトキハ一時ノ私益ヲ先ニシテ永久ノ公益ヲ後ニスルノ弊最モ其著シキヲ見一方ニハ苗樹ノ植付及ヒ培養ヲ怠ルノミナラス一方ニハ採伐ノ場所時期及ヒ順序ヲ顧ルコトナク採伐ヲ肆ニスルニ因リ森林ノ直接及ヒ間接ノ效用ヲ併セ失フニ至ルハ現時我國ニ於テ見ル所ナリ森林ノ直接ノ效用即チ木材薪炭ノ生産ハ爲メニ絶對ニ其分量ヲ減スルノミナラス數十百年ノ歲月ヲ要スル巨大ノ木材ハ永久ニ間斷ナキ需要アルモノナルニ拘ハラス漸次其迹ヲ絶ツニ至リ間接ノ效用ニ於テハ爲メニ氣候ニ急激ノ變化ヲ來シ雨量ヲ減シ霜雪ヲ大ニシ寒暖其度ヲ失シ人體生産物ノ發達ヲ害シ殊ニ洪水ノ災害ニ至リテハ行政上ノ煩勞財政上收入ノ減少之カ救濟及ヒ復舊ヲ爲スカ爲メニ要

スル巨額ノ支出風土人情ノ頑屢等有形ニ無形ニ幾多ノ弊害ヲ來スノミナラス幾多ノ貴重ナル人命及ヒ財産ヲ暴殄スルニ至ルハ我國ニ於テ頻年見ル所ナリ

(乙) 森林ハ財政上官有ト爲スヘキコト　森林ハ曾ニ公益上之ヲ官有ト爲スヘキ場合尠カラサルノミナラス之カ經營ハ却テ官業ヲ適當ト爲スコトハ上述スル所ノ如シ隨テ政府之カ經營ニ當リ之カ營林及ヒ管理ノ方法ニシテ其宜キヲ得ハ爲メニ得ル所ノ純收入ハ以テ政府ノ經費ノ一部ヲ蔽フニ足ルヘク延テ國民ノ負擔ヲ減少スルコトヲ得ヘキハ復タ疑ヲ容レサル所ナリ但我國ハ總面積ニ對スル森林ノ面積ノ比率ハ七割ニ近ク其過半ハ官有ニ屬シ各國ヲ通シテ比例上最モ森林ニ富メル國ナルニ拘ハラス維新以來森林事業ニ對シテハ官私共ニ之カ營林ノ法ヲ怠リ徒ニ之カ濫伐ニ委棄セシヲ以テ其收入ハ甚タ尠タ之ヲ森林事業ノ發達セル索遜ト比較スレハ我國ハ其面積ニ於テハ四十餘倍ノ官林ヲ有スルニ拘ハラス其收入ノ總額ハ却テ之カ六分ノ一ニタモ充タサルノ狀況ニ在リ然レトモ明治十九年大小林區署ノ制ヲ設ケ二十四年全國ノ官林ヲ政府ノ下ニ所管シ三十年四月森林法ヲ發布シ尋テ三十二年三月國有林野法ヲ發布シ近時森林ニ對シテハ朝野ヲ通シテ留意スル者多キニ至リシヲ以テ數十年ノ後ニ至ラハ我國ノ森林ヲ以テ國庫ノ一大財源ト爲スコトハ敢テ難シト爲ササルノミナラス我國公私經濟ノ發達上又之カ改良發達ヲ期セスンハ非サルナリ

第三款　日本ノ森林事業

我國ノ森林事業ハ德川時代ニ至リテ大ニ見ルヘキモノアリ當時農商工業ノ勃興ニ伴ヒ著シキ木材ノ需用ヲ高メ原野ノ開墾亦盛ニ行ハレシモ年年需用ノ伐木高ハ森林ノ成長量ヲ超過スルコトナク殊ニ奥羽ノ諸侯ハ大ニ森林ノ經營ニ意ヲ用ヒ今日ニ至ルモ其蹟猶ホ見ルヘキモノ頗ル多シ當時封建諸侯ノ下ニ於テル森林ハ概チ代官地頭其命ヲ奉シ官民共利ノ法ニ依リテ經營シタルモノニシテ百姓林ノ如キハ純然タル民有林ナリシモ尙ホ採伐ノ許可採伐後苗樹ノ植付等幾多ノ制限ヲ加フルヲ例ト爲セリ維新ノ革命ニ至リ從來ノ實質上ノ所有權ハ明治五年形式ニ於テモ亦明カニ認メラレ同七年民有地、官有地ノ區別ヲ明

カニシ同九年ノ地租改正、同二十年地押調査ニ依リ森林ノ所有權モ亦大體ニ於テ整理セラレタリ今便宜重ナル統計ヲ示セハ次ノ如シ

官有地及ヒ民有地ノ段別表

官有地合計	二一三九萬町	民有地合計	一三七八萬町
内		内	
官林及ヒ官有原野	一七五八	山林	七二八
皇宮地及ヒ附屬地	三六五	原野及ヒ牧場	一〇七
		田	二七三
		畑	二二七
		宅地	三八

森林ノ面積國別表

國名	面積（ヘクタール）	全面積ニ對スル百分率	人口一人ニ對スル割
露西亞	一九三一九萬	三八	（ヘクタール）二、六七
墺太利	九七七	三二	〇、四五
獨逸	一三九〇	二五	〇、三〇
伊太利	五七六	二二	〇、二〇
佛蘭西	八三九	一五	〇、二三
日本		六〇	〇、五六町

官私森林比率表

國名	國有及ヒ帝室有	民有
露西亞	六〇	四〇

墺太利	六六	九四	
獨逸	三三	六七	
伊太利	四	九六	
佛蘭西	一一	八九	
日本	六八	三二	

即チ我國ハ最モ森林ニ富メル國ノ一ニシテ殆ト全面積ノ半以上ヲ占メ又其森林ノ七割ハ官有ニ屬セリ此ノ如キ豊富ナル森林ヲ有スル我國ノ官有森林ノ收入ヲ見ルニ次ノ如シ

國名	面積	純收入	一町歩ノ純收入
日本	七二七高町	二六高圓	圓〇三八
墺太利	九六	八四	、五八三
普漏西	二四〇	五四三	二、二六四
佛蘭西	三〇五	一四〇二	四、六三五
白耳義	二	一四	五、七一七
索遜	一七	一八五	一〇、七六一

即チ日本ノ官林ハ索遜ノ官林ニ比スレハ其面積ニ於テ四十二倍ノ多キニ居ルニ拘ハラス其純收入ハ却テ二百八十三分ノ一ニ當レリ故ニ我國ノ如キ豊富ナル森林ヲ有スル國ニ在リテハ少クトモ普漏西ト同純收入アリトスレハ正ニ千六百餘萬圓ノ純收入少クトモ四千餘萬圓ノ總收入ヲ得ヘキモノタリ

我國ノ森林カ此ノ如キ驚ムヘキ狀態ニ在ルハ啻ニ積極的ニ森林ノ經營發達キサルノミナラス消極的ニ森林ノ保護尚ホ幼稚ナルニ基因セリ森林ノ損害中ニ在リテモ動物植物其他森林ノ性質ニ依リ容易ニ之カ保護ヲ全クシ難キモノアルモ人類ノ爲メニ受クル損害ハ森林ノ保護監督ニ依リ直接ニ之ヲ抑制シ得ヘキモノナリ近時我國ノ官林ノ損害ハ年年十五萬圓内外ニシテ其大部ハ盜難風害及ヒ火災ナリ消極的ニ森林ヲ受クル損害ニシテ尚ホ森林純收入ノ半以上ニ達スルハ森林保護ノ不十分ナルヲ證スルニ餘アリトス森林ノ盜難火災ハ間接

ニ水害其他幾多ノ災害ヲ來スハ一般ニ熟知スル所ニシテ所謂保安林ナルモノノ效果ハ我森林法第八條ニ依リテ明カナリトス即チ森林ノ濫伐ハ土砂ノ崩壞、流出ヲ助ケ河底ヲ高メ洪水ノ害ヲ導キ飛砂ニ依リテ耕地ノ土質ヲ害シ水源涵養ノ利ヲ失フモノナリ近時水害ノ復舊工事ニ用フベキ土木費ハ其名ハ臨時費ナルモ事實トシテハ國家ノ經常ト爲リ此等災害ニ因ル人類貨財ノ損失額ハ單ニ直接ノ損害トシテ知ルヲ得ルノミニテ年年平均二千萬圓內外ニ上レリ隨テ此直接ノ損害及ヒ之ニ伴フ有形無形ノ間接ノ損害及ヒ之カ復舊ノ爲メニ積極的生產事業ニ投シ得ヘキ巨額ノ資本ヲ消極的ニ費消スル國家ノ損害ハ其額復タ想像スルニ餘アリトスヘシ

第二章　政府ノ產業

第一節　官行鑛業

第一款　鑛物及ヒ鑛業ノ觀念

行政法上ノ鑛物ノ意義ハ各國法規ノ異ナルニ從ヒ其範圍ヲ一ニスルヿト難キモ大體原素及ヒ有機體ノ二種ニ限ラレ鹵石物(山鹽類)ノ如キハ財政上重要ナル鑛物トシテ認メラルルモ通常鑛業ノ法規ノ外ニ措カルルヲ例トセリ鑛業條例砂鑛採取法鑛物ノ行政法上ノ性質ハ或ハ土地ノ一部ト看做シ或ハ無主物ト看做シ或ハ國家ノ所有ニ屬スルモノト看做サレ其採取權ノ如キモ或ハ土地ノ所有權ニ附隨スル權利ト看做サレ或ハ特種ノ地役權ト論スルアリ或ハ無主物ノ先占ニ因リテ取得セラルル特種ノ權利ナリト曰フアリ然レトモ鑛物ニ對スル古來ヨリノ沿革ト今日ノ實際ニ徵スルニ鑛床ヲ以テ國家ノ所有ト爲スヲ以テ定說ト爲スモノノ如シ我國ノ法制ニ於テハ民法第二百一條ハ土地ノ所有權ハ法令ノ制限內ニ於テ其土地ノ上下ニ及フモノト規定シ一方ニハ鑛業條例第二條ニ於テ鑛物ノ未タ採掘セサルモノハ國ノ所有トスト規定セリ隨テ我國ノ法規ニ認ムル採掘權ハ鑛物ノ占有ニ因リテ其所有權ヲ取得スル一種ノ私權ニシテ特許ニ基クモノト解釋スルヲ至當トス但砂鑛ニ至リテハ砂鑛採取法ニ於テ其解釋ヲ異ニセリ

第二款　鑛業ノ沿革

鑛物ノ所有權ノ所在ハ古來學說實際ニ通シテ一途ニ出ツルコトナキカ如ク鑛業ノ管理法モ亦著シク其類ヲ異ニセリ等シク國有ト認ムルモ或ハ政府自ラ採鑛冶金ニ從事スルコトアリ或ハ私人ニ貸下ケテ之カ經營ヲ許スモノアリ或ハ特定ノ鑛山ニ限リテ政府ノ官業ト爲スモノアリ或ハ鑛物ノ種類ヲ限リテ私人ノ採掘ヲ許スモノアリ鑛山ノ一部ニ私人ノ採掘ヲ許可シ之ニ依リテ得ル免許料及ヒ採掘料ハ中世紀ニ至ルマテハ所謂「レガリヤ」ニ屬スルモノ最モ重ナル部分ヲ占メタリ其後英國ニ在リテハ鑛業ノ主權ハ金銀鑛ノ二種ニ限ラレ米國モ亦大體ニ於テ英國ノ制ニ倣ヘリ現時歐洲大陸ニ於テ最モ廣ク用ヒラルルハ鑛物ノ占有者ニ鑛業ノ自由ヲ認ムルノ制ニシテ何人ト雖モ鑛物ヲ發見シ法規ノ定ムル所ニ準據シテ之カ採掘ヲ爲シタル者ハ其所有權ヲ取得スルコトヲ得ルモノト爲セリ我國ニ於テハ明治二十三年ニ至リ又此主義ニ依リ鑛業條例ヲ公布シ鑛業主權ノ主義ヲ廢セリ

第三款　官行鑛業ノ得失

政府カ鑛業ヲ經營スルノ得失ハ時ト處ニ依リ必スシモ一定ノ論斷ヲ下シ難キモ鑛業ノ發達セル今日ニ於テハ鑛業ヲ擧ケテ政府ニ歸屬セシムルノ要ナク又絕對ニ官行ノ鑛業ヲ否認スヘカラサルモノアリ此種ノ營業ハ巨額ノ資本ヲ要シ長期ノ成立ヲ條件ト爲シ其利潤不確定ナルノミナラス之カ取得ニ長年月ノ經過ヲ待ツヲ要スヘキモノナルヲ以テ會社事業ノ發達セサル時代ニ在リテハ國家自ラ進ミテ之カ經營ニ當ルノ要アルモ漸次其必要ノ度ヲ減スルハ言ヲ俟タサル所ナリ民業ノ鑛業ヲ批難スルハ或ハ鑛業ノ利潤ノ多少或ハ鑛業者ノ聯合ニ基ク鑛物ノ價格ノ高下、特種ノ有用ニシテ且限アル鑛物ノ濫出等ニ在ルモ官行ノ鑛業ハ到底法規ノ下ニ行動スル政府ノ事業ニ不適當ナルノミナラス民業ニ對スル批難モ行政上ノ監督又ハ財政上ノ課稅等ニ依リテ之ヲ救濟スルヲ難シト爲サス我鑛業條例ノ如キモ一方ニハ鑛物ノ國有ヲ原則トシテ之カ試掘、採掘ニ對シ政府ノ特許ヲ條件ト爲シ鑛業人ノ實格出願手續鑛業ノ場所及ヒ其

面積、土地ノ使用施業方法等ニ對シ甚多ク制限ヲ規定シ殊ニ種籾物ノ保安及ビ工夫ノ生命及ビ衛生上ノ保護及ビ地表ノ安全並ニ公衆ノ保護等ニ關スル警察規定ヲ密ニシ一方ニハ鑛業人ハ鑛業稅トシテ鑛區ノ外ハ鑛業產物ノ百分ノ一、鑛區稅トシテ鑛區一千坪毎ニ一箇年金三十錢ヲ納付セシメ鑛業ニ關スル確實カル收入ヲ保證セリ我國ノ三十五年度ノ豫算ニ依レハ鑛業稅ノ收入ハ七十七萬圓ナリトス

第二節　官行工業

第一款　官行模範工場

產業ノ發達奬勵ヲ目的トスル模範工場ハ古クヨリ各國政府ノ設立スル所ニシテ或ハ宮廷ノ用品國際上ノ贈物等特種ノ物品ヲ製造シ或ハ一般工業ノ模範トシテ織物、陶器彫刻等現今ノ勸業博覽會ト同一ノ目的ヲ以テ設定セラレタルモノアリ又技術ニ關スル事業ニシテ其技術ノ發達及ヒ之ニ關スル專門家ノ保護養成ヲ目的トシテ巨額ノ支出ヲ爲スコト多シ現時我國ニ於ケル農事試驗所ノ

如キ其一部之ニ類スルモノナリ歳入二百三十二萬圓支出二百四萬圓差引二十八萬圓ノ歳入ハ歳出採用金額ノ歳入總額ニ對シ僅ニ其百分ノ一ニ過ギス

第二款　官行印刷業

政府ノ文書ノ祕密及ヒ之カ印刷ノ敏活確實ヲ保證スル爲メ各國政府自ラ印刷事業ノ經營ヲ爲スモノ多シ殊ニ政府發行ノ各種ノ刊行物式紙帳簿類其他證券印紙切手、業書等ノ物品ノ製作ヲ爲シ傍ラ模範工場トシテ斯業ノ技術的發達ニカヲ與フルコト多シ我國印刷局作業ノ收入ハ三十五年度ノ豫算ニ依レハ百七十三萬圓之ニ對スル支出ハ百五十六萬圓ニシテ結局十七萬圓ノ益金ヲ生スル豫算ナリ

第三款　官行兵器製造業

製造ノ祕密ト優等ノ物品ノ製造トノ保證ヲ目的トスル工業ハ主トシテ兵器ノ製造業ナリ民間ノ工業未タ發達セサル時期ニ在リテハ此等官業ノ必要多カリシモ今日ニ至リテハ漸次其必要ノ度ヲ減シ之カ民業經營ノ可否ハ時事ノ問題

ニ屬セリ

參考　明治三十五年度豫算ノ歲出ニ於テハ官業ノ主ナルモノ與器ノ

	收入	支出
東京砲兵工廠	六百八十八萬圓	六百八十八萬圓
大阪砲兵工廠	六百七十三萬圓	六百七十三萬圓

十三千住製絨所ノ支出ハ百五十二萬六百六十一萬圓、十分二百六十一萬圓ハ

鎮守府造船材料費金明治三百十八萬圓正年度三百二十三萬圓百分

電信燈臺用品製造所二十九萬圓　二十九萬圓

第四款　官行造幣業

信用ノ維持ヲ目的トスル官行工業ノ重ナルモノハ造幣事業ナリ我國ノ造幣局ノ收入ハ鑄造料、地金銀ノ精製料、品位ノ證明料其他各種ノ收入附加スルヲ以テ三十五年度ノ豫算ニ依レハ作業收入二百三十二萬圓支出二百四萬圓差引二十八萬圓ノ益金ヲ生スル豫定ナリ

第五款　官行獨占製造業

官行獨占ノ製造業トハ一般民業ニ依リテ生產セラルル特種ノ貨財ヲ獨占スル官行工業ニシテ通常其生產物ノ販賣ヲ併セ經營スルコトアリ隨テ其形式ハ貨財ノ生產業ニ外ナラサルモ其實質ハ獨占ノ作用ニ依リテ通常ノ利潤ノ比率以上ノ收入ヲ獲得スルヲ目的トシ租稅收入ノ一種ノ變形ニ過キサルモノナリ此種ノ官行工業ハ通常煙草、鹽、阿片、樟腦等ニ其例ヲ見ルコト多シ現時我國ニ於テ煙草專賣、煙草獨占ノ製造ト爲スヲ可否ハ一部ニ於ケル時事問題ト爲レリ

第六款　官行自然的獨占工業

自然的獨占事業ニシテ政府ノ工業ト認ムヘキ重ナルモノハ水道、瓦斯、電燈等ノ事業トス此等ノ事業ハ公共事業ノ一種トシテ衛生其他ノ點ヨリ社會全般ニ通シ利害關係密接ナルヲ以テ一方ニハ社會政策上ヨリ之カ民業ヲ批難シ一方ニ

ハ自治財團ノ財源トシテ之ヲ都市ノ公有トス爲スヘシトハ一般學說ノ致スル所ナリ殊ニ一般人民ニ普及スヘキ水道事業ノ如キハ外國ニ於テ概ネ其大部ハ公有トス爲リ我國ノ如キモ當初ヨリ之カ公有ヲ條件ト爲セリ電燈、瓦斯ノ事業ニ至リテモ近時都市ニ於テ新ニ之カ經營ニ從事シ又ハ民業ヲ買上クルモノ相次キ近時佛國ニ於テ調査セル所ニ依ルモ歐洲ノ瓦斯事業ハ其半ハ公有ニ歸屬スルニ至レリト云フ

第三節　官行商業

第一款　緒論

茲ニ政府ノ商業ト稱スルハ交通事業以外ノ補助商業ヲ總稱スルモノナリ蓋シ固有商業ハ政府ノ事業トシテ不適當ナルヿ說明ヲ俟タサル所ニシテ古代ニ於テハ時時固有商業ヲ營ミタル迹ナキニ非サルモ今日ニ於テハ殆ト其例ヲ認メス茲ニ擧クル所ノ補助商業ハ銀行業、富籤業、質業、保險業、郵便爲替貯金業及ヒ專賣業ノ類ナリトスヘシ

第二款　官行銀行業

銀行業務ハ國家ノ財政ト密接ナル關係ヲ有シ國庫事務、官有財產ノ管理、公債ノ募集償還等總テ金融ノ出納、會計ノ整理ニ關シ銀行ノ行動ニ待ツコト甚タ大ナリトス隨テ銀行ノ政府ノ管理ニ屬セシムルコトハ比較的ニ批難尠ク現ニ露西亞瑞典ノ如キハ純然タル官立銀行ヲ有セリ而シテ此等官立銀行ハ投機的ノ性質ヲ帶フル資本ノ取扱事務ハ其大部又ハ全部ヲ廢シ貨幣ノ取扱事務ヲ主ト爲セリ然レトモ貨幣取扱事務ハ常ニ國民經濟ノ實相殊ニ金融界ノ狀態ニ通曉スル所ナクンハ非ス隨テ官立ノ銀行ハ却テ政府ノ不利ト爲ス所多ク半私半公ノ銀行ハ最モ利便ナリトスル所ニシテ之ニ特種ノ特權保護ヲ與ヘ之カ報酬トシテ政府指定ノ任務ヲ負ハシムルハ皆文明諸國ニ於テ廣ク行ハルル所ナリ我國ノ日本銀行ハ中央金庫、本金庫、支金庫ノ現金ノ出納、保管ノ事務、公債ノ募集、借替償還事務、政府發行ノ手形類ノ割引買入等ヲ取扱ヒ一方ニハ爲替銀行勞ノ發行權ヲ許與セリ而シテ我國ハ歐米諸國ト其狀態ヲ異ニスル所アルカ故ニ對外業

務ニ付テハ別ニ横濱正金銀行ナルモノヲ設立シ政府並ニ日本銀行ハ外國ニ關スル業務ハ正金銀行ヲ通シテ行ハルルコトト爲レリ(日本銀行條例、兌換銀行券條例、金庫規則參照)

第三款　官行富籤業

富籤ハ技能勤勞ニ依ラスシテ富ヲ得ルノ途アルコトヲ示スモノニシテ著實ナル企業心ヲ抑壓シテ投機心ヲ挑發シ大多數ノ利益ヲ剝奪シテ一部少數ノ者ニ不當ノ利得ヲ與ヘ富ノ調和ヲ紊シ社會ノ秩序平和ヲ破ルモノナリ隨テ各國ノ法規ハ之ニ對シテ刑法上ノ制裁ヲ加ヘ之カ禁壓ヲ圖レルモノアリ然レトモ歐米各國ニ在リテハ一方ニハ賭博ニ關シ嚴重ナル制裁ヲ附スルニ拘ハラス一方ニハ政府自ラ富籤ヲ興行シ國庫ノ財源ト爲スモノナリ十九世紀ニ入リテヨリ英吉利、佛蘭西、瑞典、「バーバリヤ」、瑞西等ノ諸國ハ相次テ之カ官業ヲ廢シ又之カ民業ヲ禁止スルニ至リシモ尙ホ普漏西、索遜、「ブランシュワイヒ」、「ハンブルヒ」、亞米利加合衆國ノ「ルイジアナ」及ヒ「ケンタッキー」州等ニ於テハ官行ノ富籤行ハレ墺太利、匈牙利、伊太利等ニ在リテハ富籤業ヲ獨占官業ト爲セリ普漏西ニ於テ行ハルル富籤ハ「クラッセン、ロッテリー」(等級富籤)ト稱セラルルモノニシテ政府ハ其賭金ノ總額ヨリ手數料ヲ得ルヲ目的トセリ千八百九十八年度ノ豫算ニ依レハ富籤ノ收入八千萬「マーク」ヲ超過セリ又伊太利ニ在リテハ「ヴァーレン、ロッテリー」(計數富籤)ナルモノ行ハレ國庫モ亦射倖ノ地位ニ立チテ其收入不定ナルモ同年度ノ收入ハ又六千萬「リラ」ニシテ郵便電信收入ニ超過セリ之ヲ要スルニ富籤ハ經濟上、道德上批難スヘキモノナリト雖モ沿革上財政維持ノ手段トシテ事實已ムヲ得サルノミナラス其土地ノ風俗、民情及ヒ其富籤ノ方法如何ニ依リテハ必スシモ絕對ニ批難スヘカラサルモノアリ但富籤ニ在リテモ利息富籤ト稱セラルルモノニ關シテハ他ノ富籤ト全ク其趣ヲ異ニシ其弊害尠キヲ以テ各國ニ廣ク行ハルル所ナリ尙ホ其詳細ハ割增公債論ノ下ニ併セ述フル所アルヘシ

第四節　官行質業

金錢ノ貸借ハ對人信用ニ基クト對物信用ニ基クトニ拘ハラス純然タル私經濟

的事業ナリト雖モ近時社會政策ノ隆興ニ伴ヒ之カ政策ノ一トシテ特ニ對物信用ノ一種タル質業ノ官業ヲ認ムルニ至レリ茲ニ官業ノ質業ト謂フモ事實トシテハ地方公共團體ノ事業ト爲スヲ例ト爲セリ其目的ハ主トシテ下級社會ニ於ケル金融機關トシテ自由ニ便宜ニ且低利ニ資金ノ需用ヲ充タサシムルニ在リ蓋シ現時ノ下層社會ハ未タ自ラ信用組合ヲ組成スルノ地位ニ達セス銀行等ノ金融機關ヲ利用スルノ力ナク常ニ高利ノ質業者ニ依リテ不當ノ損失ヲ受クルヲ例ト爲スモノナリ古來各國ニ於テハ利息ノ制限法其他質業者取締法規ニ依リテ此等ノ弊害ヲ除却スルニ力メタルモ今日ニ至ルマテ事實ニ於テ何等ノ效果ヲ奏スルコト能ハサルハ明カナル所ナリ獨逸ニ於テハ千八百二十六年普漏西政府ハ勅令ヲ以テ市設ノ質業局ノ組織其他利率ノ標準等ヲ定メ又伯林ニ皇室所屬ノ質業局ヲ設ケタリ千八百三十三年政府ハ法律ヲ以テ各市貯金ヲ以テ質業局ノ資本ト爲スコトヲ許セシヨリ漸次之カ隆盛ヲ來シ現時ノ獨逸ノ市設質業局ハ八十四ノ多キニ上レリ佛蘭西ノ如キモ路易十六世勅令ヲ發シテ都市ノ重ナルモノニ質業局ノ設立ヲ命シ其資本トシテ窮民救助院ノ基本財產ヲ運用スルコトヲ許可シテヨリ著シク發達シ現時其數既ニ四十二ニ達シタリト云ヘリ質業局ハ固ヨリ下級ノ金融機關タルヲ目的ト爲スヲ以テ其目的物ハ動產ニ限ラレ貸付期限ハ六箇月乃至一箇年ヲ例トシ千「フラン」又ハ千「マーク」ヲ限度トシ低利ヲ以テ貸付クルモノナリトス其得ル所ノ利潤ハ元金ニ繰込ミ尚ホ殘餘アルトキハ各種ノ慈善事業ニ投スルヲ例ト爲セリ所謂慈善貸付業ト稱セラルモノ是ナリ

第五節　官行ノ郵便爲替及ヒ貯金業

政府ノ郵便爲替及ヒ貯金業ハ其實質ヨリ觀レハ一種ノ銀行事務ト視ルコトヲ得ヘク又其形式ヨリ觀レハ一種ノ郵便事務ト視ルコトヲ得ヘシ蓋シ郵便爲替及ヒ貯金ヲ官業ト爲スノ趣旨ハ財政上ノ收入ヲ目的トスルニ非ス主トシテ行政上ノ便宜ニ基ケリ即チ金融機關トシテ又貯蓄心奬勵ノ機關トシテ社會全般ノ利便ト幸福トノ普及ヲ目的ト爲セリ蓋シ郵便爲替及ヒ貯金ノ絕對的必要ナル所以ハ收支相償ハサル地方ニ此等ノ機關ヲ普及シテ之カ利便ノ途ヲ開ケル

ニ在リ其相對的必要ナル理由ハ私設ノ機關設備セラルル地方ト雖モ政府ノ信用ノ一層確實ナル點ニ存ス故ニ郵便爲替及ヒ貯金ヲ通シ其取引金額ノ絕對的增加ハ固ヨリ希望スル所ナルモ營利ヲ目的トシ商業上ノ機關タルヲ主タル目的ト爲サザルカ故ニ爲替ノ振出及ヒ貯金ノ預入ノ金額ハ之ニ制限ヲ加フルハ列國ノ法規ニ於テ一致スル所ナリ我國ニ於テモ郵便貯金ハ一回五十圓ヲ限リ總額五百圓ヲ限トシ其利子モ僅ニ四分八厘ニ止マレリ郵便爲替モ一枚ノ金額制限ハ五十圓ヲ超過スルコトナシ郵便爲替及ヒ貯金ハ互ニ資金ヲ流用シ其金額ノ利殖ハ大藏省ノ經理ニ屬シ其支出モ郵便電信事業ト併セテ經營スルカ故ニ之カ正確ナル數字ヲ知ルニ由ナシ然レトモ貯金ハ爲替ト異ナリ其預入額ハ其總額ニ於テ變動尠キカ故ニ平均二千五百萬圓內外ノ現在預リ高ハ國庫ノ管理上財政ノ上ニ著シキ利便ヲ與フルハ言ヲ俟タサル所ナリ

第三章　政府ノ交通業

緒論

雜報

○數罪俱發例ニ依ル判決中ノ一罪ニ對スル控訴　數罪俱發例ニ依リテ一ノ重キ罪ニ付キ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ其重キ罪ニ對シ控訴アリタルトキハ控訴裁判所ハ當然輕キ罪ニ付テモ審理裁判スルコトヲ得ルヤ否ヤニ付テハ從來議論アル所ニシテ(一)或ハ其審理裁判ヲ爲スコトヲ得ルモ此場合ハ輕キ罪ニ付テハ既ニ判決ヲ經タルモノナルカ故ニ控訴アリタル重キ罪ハ餘罪トシテ刑法第百二條ヲ適用スヘシト曰ヒ(二)數罪俱發例ニ依ル裁判ニ對シテ分割シテ控訴スルコトヲ許スヘカラス隨テ控訴裁判所ハ當然輕キ罪ニ付テモ審理裁判スヘキモノナリト爲シ(三)不告不理ノ原則ニ依リ重キ罪ノミニ付キ審理裁判スレハ可ナリト論ス大審院ハ初メ第一說ヲ採ラレタルカ如シト雖モ近來第二說ニ依ラルルカ如シ今其一例ヲ示サンニ曰ク第一審判決書ヲ查閱スルニ其法律ノ理由說明中ニ前略淺太郎ハ數罪俱發ニ付同法第百條ニ從ヒ犯情尤モ重キ第二ノ約束手形僞造行使ニヨリ處斷スヘキモノトシ特ニ淺太郎ハ本日當廷ニ於テ言

渡シタル輕懲役六年ノ刑ト俱發スルニ付刑期ノ長キ本件ノ刑ヲ執行スヘキモノトス」トアリテ第一審裁判所ニ於テ本件ノ判決言渡ト同日ニ被告ニ對シテ輕懲役六年ノ刑ヲ言渡シタル犯罪ハ本件ノ犯罪ト俱發シタルヲ以テ刑法第百條ノ規則ヲ適用シ一ノ重キ罪ニ從ヒ處斷シタルモノナルヤ明カナリ果シテ然ラハ右輕懲役六年ノ刑ヲ言渡シタル被告ノ犯罪事件ハ本件ト分離スルヲ得サルモノナルヲ以テ被告ノ控訴中ニハ當然右二事件ヲ包含スルモノト云ハサルヘカラス然ルニ原院ハ「淺太郎ハ岐阜地方裁判所明治三十四年と號第二五號事件ニ付同年七月二十六日同裁判所ニ於テ輕懲役六年ノ確定判決ヲ受ケ居ルモノニ付本案ハ其餘罪ニ係ル」ト說明シ判決主文ニ於テ「但淺太郎ノ刑ハ前發ノ刑輕懲役六年ト通算ス」ト言渡シ右控訴中ニ包含シタルと第二五號事件ニ付審理判決ヲ爲ササリシハ則チ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲ササル不法アリ」ト（大審院明治三十五年（れ）第三八一號納束手形及委任狀僞造行使詐欺取財被告事件明治三十五年五月一日第二刑事部宣告）

○第二審公判ニ於ケル闕席判決手續　第二審公判ニ於テ闕席判決ヲ爲スニ方リ刑事訴訟法第二百五十八條第一項第二百三十六條ニ依リ第二百二十七條

ノ規定ヲ準用シ呼出狀ヲ本人ニ送達スルコトヲ要スルヤ（第二百二十七條第二項ニ該ラサル場合）否ヤノ問題ニ付キ大阪控訴院カ豫審終結決定書ノ本人ニ送達アリタルコトヲ理由トシ呼出狀ヲ本人ニ送達セスシテ闕席判決ヲ爲シタルヲ不當トシ檢事長ヨリ上告ニ及ヒタル論旨ニ對シ大審院ハ說明ヲ與ヘテ曰ク「刑事訴訟法第二百五十八條ニハ「控訴ノ裁判ニ付テハ地方裁判所ノ第一審ニ關スル規定ヲ適用ス」トアリ又同法第二百三十六條ニハ「前章ノ規定ハ此章ニ別段ノ定メナキモノニ限リ地方裁判所ノ輕罪重罪ノ公判ニ準用ス」トアルヲ以テ控訴ノ裁判ニ付テモ亦同法第二百二十七條ノ規定ヲ準用ス可キコト論ヲ俟タス從テ被告本人ニ於テ一タヒ豫審終結決定書ノ送達ヲ受クルニ於テハ第一審ナルト第二審ナルトヲ問ハス呼出狀ノ本人送達ヲ爲サスシテ闕席判決ヲ爲シ得ルモノノ如シ然レトモ第二百二十七條ノ規定タルヤ被告本人ヲシテ某事件ニ付某裁判所ノ公判ニ付セラレタルコトヲ確知セシムルヲ以テ其趣旨ト爲スカ故ニ第一審ニ於テハ豫審終結決定書ノ本人送達ニ依リ其趣旨ヲ貫徹シ得可キモ第二審ニ在テハ之ニ因テ以テ其趣旨ヲ貫徹シ得ヘキモノニアラス故ニ控訴

ノ裁判ニ付テハ第二百二十七條ノ趣旨ニ準據シ被告本人ニ於テ第二審ノ公判ニ付セラレタルコトヲ確知セサル場合ニ在テハ呼出狀ノ本人送達ヲ爲スモアラサレハ闕席判決ヲ爲シ能ハサルモ之ヲ確知スル場合ニ在テハ其本人送達ヲ爲サスシテ闕席判決ヲ爲シ得可キモノト解釋セサルヲ得ス而シテ本件ハ被告ノ控訴ニ係ルノミナラス控訴ノ闕席判決ニ對シ被告ヨリ故障ヲ申立タル事件ナルヲ以テ更ニ闕席判決ヲ爲スニハ呼出狀ヲ適法ニ送達シタル證アルヲ以テ足リ其本人送達ヲ爲スノ要ナキコト辯ヲ待タサル可シ左レハ原院カ審審終結決定書ノ本人送達アリシヲ理由トシテ呼出狀ニ本人送達ヲ爲ササリシハ其當ヲ欠クト雖モ其本人送達ヲ爲サスシテ闕席判決ヲ爲シタル措置ハ不法ニアラサルニ云云ト（大審院明治三十五年（れ）第九六七號爲聽被告事件明治三十五年六月六日第一刑事部宣告）此判決ニ依レハ呼出狀ノ本人送達ヲ要スルト否トハ被告人カ事件カ第二審公判ニ付セラレタルコトヲ知ルト否トニ依リテ區別セラルルモノト謂フヘシ

和佛法律學校圖書之印

生徒募集廣告

○授業開始　九月十一日

○入學試驗　九月十六日、二十五日ノ二回何レモ午前九時ヨリ施行

○編入試驗（第二年級）　九月二十三日ヨリ施行

○聽講生　今般新ニ聽講生ノ制ヲ設ク（裏面上欄參照）

入學志望者ハ試驗前日マテニ申込マルヘシ

學則ハ郵券貳錢送付アレハ即時送呈スヘシ

九月　東京九段坂上　司法省指定　私立　和佛法律學校

ノ裁判ニ付テハ第二百二十七條ノ趣旨ニ準據シ被告本人ニ於テ第二審ノ公判ニ付セラレタルコトヲ確知セサル場合ニ在テハ呼出狀ノ本人送達ヲ爲スニアラサレハ闕席判決ヲ爲シ能ハサルモ之ヲ確知スル場合ニ在テハ其本人送達ヲ爲サスシテ闕席判決ヲ爲シ得可キモノト解釋セサルヲ得ス而シテ本件ハ被告ノ控訴ニ係ルノミナラス控訴ノ闕席判決ニ對シ被告ヨリ故障ヲ申立タル事件ナルヲ以テ更ニ闕席判決ヲ爲スニハ呼出狀ヲ適法ニ送達シタル證アルヲ以テ足リ其本人送達ヲ爲スノ要ナキコト辯ヲ待タサル可シ左レハ原院カ豫審終結決定書ノ本人送達アリシヲ理由トシテ呼出狀ニ本人送達ヲ爲ササリシハ其當ヲ欠クト雖モ其本人送達ヲ爲サスシテ闕席判決ヲ爲シタル措置ハ不法ニアラサレハ云云」ト（大審院明治三十五年（れ）第九六七號僞證被告事件明治三十五年六月六日第一刑事部宣告）此判決ニ依レハ呼出狀ノ本人送達ヲ要スルト否トハ被告人カ事件カ第二審公判ニ付セラレタルコトヲ知ルト否トニ依リテ區別セラルルモノト謂フヘシ

生徒募集廣告

○授業開始　九月十一日

○入學試驗　九月十六日、二十五日ノ二回何レモ午前九時ヨリ施行

○編入試驗（第二年級）　九月二十三日ヨリ施行

○聽講生　今般新ニ聽講生ノ制ヲ設ク（裏面上欄參照）

入學志望者ハ試驗前日マテニ申込マルヘシ

學則ハ郵券貳錢送付アレハ即時送呈スヘシ

九月　東京九段阪上　司法省指定　私立　和佛法律學校

聽講生規則摘要

本校ニテハ本科生ノ如ク各學科ヲ聽講スルコト能ハサル者又ハ各自好ム所ノ學科ニ付キ隨意聽講セントスル者ノ便ヲ圖リ新ニ聽講生ノ制ヲ設ケ來學年ヨリ實行スルコトトセリ今其規則ノ概要ヲ左ニ掲ク

一　入學ヲ許可セラルル者ハ本校ノ詮考ヲ經ルコトヲ要ス但試驗ヲ行フコトアリ

一　入學ノ際及ヒ毎月授業料二圓ヲ納ムルコトヲ要ス

一　聽講生ハ聽聞シ終リタル學科ニ付キ聽講證書ヲ、試驗ヲ受ケ合格シタルトキハ合格證書ヲ受クルコトヲ得

一　三年以上聽講生ト爲リ且本校所定ノ全學年（隨意科ヲ除ク）ニ付キ合格證書ヲ有スル者ハ本校ノ卒業證書ヲ受クルコトヲ得

明治二十二年十二月九日內務省許可
明治三十四年十一月九日第三種郵便物認可

明治三十五年九月九日印刷
明治三十五年九月十日發行
（定價金貳拾五錢）

東京市京橋區南紺屋町二十七番地
編輯兼發行者　桝田久次郎

東京市牛込區矢來町三番地
印刷者　小宮山信好

東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地
印刷所　金子活版所

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地
發行所　司法省指定　和佛法律學校
（電話番町百七十四番）